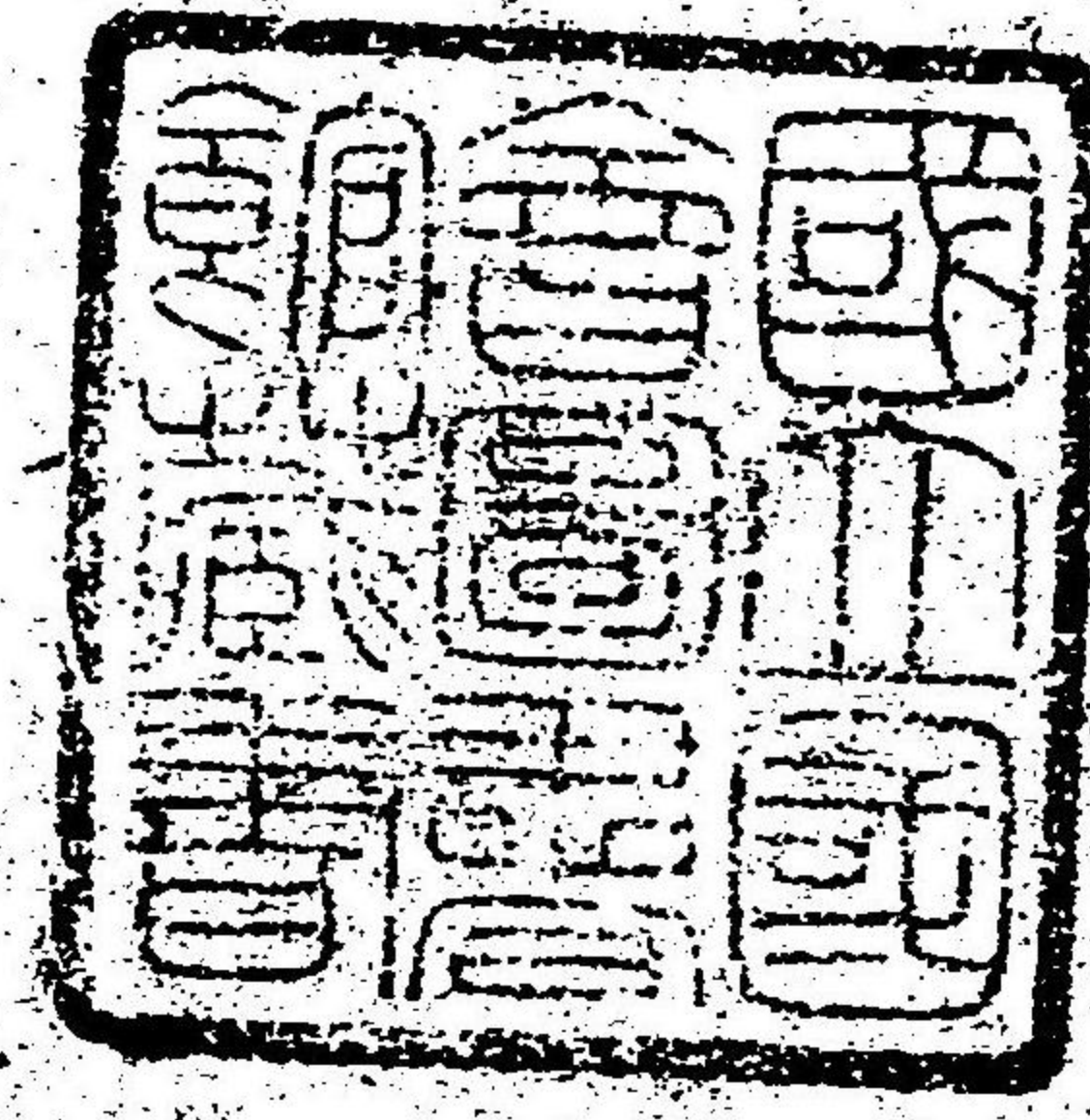


秘

滿洲軍倉庫業務報告

第八卷

陸軍省
五年五月七日



395
M178 m

32857

滿洲軍倉庫業務報告第八卷

第四編 獸醫材料

第一章 滿洲軍本倉庫獸醫材料業務概況

(本章ハ滿洲軍倉庫獸醫材料主任陸軍三等獸醫正萩原源次郎ノ報告ヲ以テ之ニ充ツ)

明治三十七年八月二日滿洲軍倉庫編成命令發布セラレ、翌三日ヨリ東京陸軍參謀本部内(後チ相模屋)ニ假事務所ヲ設ケラレ、茲ニ事務ヲ開始セリ。同年八月十日編成完結ヲ告ゲ、翌十一日新橋發出征ノ途ニ上レリ。爾後一年有九ヶ月間、滿洲軍ノ活動ニ伴ヒ各部隊ニ獸醫材料及蹄鐵ヲ供給シ、時ニ生牛ノ購買検査、屠牛事業等ノ副業ヲ經營シ、遺憾ナク業務ヲ遂行シタルハ、偏ニ長官ノ指導宜シキヲ得タルト、部下ノ熱誠ニ依レルトヲ茲ニ特筆スルノ光榮ヲ有ス。

今左ニ各期ニ分チ其概要ヲ叙述セントス。

第一期自明治三十七年八月三十一日
至同 年十二月三十一日

明治三十七年八月十四日安藝丸ニテ宇品港出航龍巖浦寄航、同月十九日清國青泥窪ニ上陸、直チニ業務ヲ開始シ、翌二十日部内職員ヲ會シ、諸準備及器具材料ノ受領、諸帳簿ノ整頓、庫手ノ配屬、並ニ分擔ヲ規定シ、同時ニ第一、第二、第三、第四軍兵站獸醫部長へ業務開始ノ通報ヲ發セリ。職員ハ陸軍一等獸醫萩原源次郎、陸軍二等獸醫遊佐甚右衛門、騎兵一等蹄鐵工長依田盛之、騎兵二等蹄鐵工長長尾東悅、其他庫手三名ナリキ。

當時青泥窪ハ占領後日猶淺キヲ以テ諸般ノ設備不完全ニシテ材料格納倉庫ノ如キハ殆ド無ク偶々適當ナル場所ノ存スルアルモ既ニ他部隊ノ占領スル處トナレリ。依テ兵站司令部ニ交渉ヲ重ネ破壊セル支那家屋ヲ修繕シ、又一方ニハ露西亞町海岸鐵道提理部ノ倉庫一棟ヲ借り受ケ辛フシテ獸醫材料格納所ニ供用シ、他方面ニハ給水場附近兵站司令部倉庫ヲ借り受ケ之ヲ蹄鐵格納場ニ使用

スルヲ得テ始メテ雨露ヲ防グベキ設備整ヒタリ。

同年九月一日以降獸醫材料及蹄鐵續々到着シ業務最モ多忙ヲ極メタリ。之レト同時ニ各軍ヨリノ補充請求頻ニ來リ殊ニ遼陽戰後ノ補充、沙河戰準備等ノ爲メ遼陽支庫開設當時ニアリテハ材料及蹄鐵ノ輸送殆ド間斷ナカリキ。又營口支庫開設ト同時ニ汽車輸送ノ障礙ニ對スル準備トシテ此地ニモ海路ヨリ材料及蹄鐵ヲ輸送シ補給線ヲ二方面ニ設ケテ補給業務ノ便ヲ圖レリ。

本期間人員ノ出入ハ九月十日砲兵二等蹄鐵工長飯田右衛門倉庫附トシテ到着セルヲ以テ營口支庫附ヲ命ジ、九月十一日營口支庫開設ノ爲メ遊佐獸醫ヲ特派シ、引續キ遼陽支庫設置ノ爲メ同地へ派遣シ、九月二十一日柳樹屯支庫附トシテ到着セル騎兵三等蹄鐵工長八木沼喜重ヲ本庫ノ業務ニ從事セシメタリ。亦同月二十日三等獸醫江口管太郎營口支庫附トシテ到着ニ付直チニ出發セシム。同二十日依田工長ヲ遼陽支庫業務多忙ノ爲メ該支庫へ分遣ス。十月二十二日騎兵三等蹄鐵工長萩原定治郎到着ニ付遼陽支庫附ヲ命ズ。同十二月十二日營

口支庫ニ於テ屠牛業務開始ノ爲メ八木沼工長ヲ營口支庫附ニ命ジ飯田工長ヲ遼陽支庫ニ轉ズ。

四

之レヲ要スルニ本期間ハ創業期ニシテ、加フルニ各支庫ノ開設及各軍ヨリスル材料及蹄鐵ノ補充系統等確實ナラザルヲ以テ、常ニ複雑ナル手數及往復等ノ煩ヲ免レサル爲メ執務上不尠煩雜ヲ生ジ、殊ニ汽車輸送ニアリテモ取扱方法區々ナルヲ以テ諸般ノ事務遲々トシテ進捗セザルニ關ラズ辛フシテ諸障害ヲ排除シ、幸ニ補給上ニ蹉跌ヲ生ゼザリキ。殊ニ年末ニ至リテハ婆艦隊東航ノ爲メ大輸送開始セラレ、續々トシテ到着セル材料ハ倉庫ニ充滿シ、蹄鐵ノ如キハ遂ニ不得止一部ノ堆積ヲ造ラザル可ラザルニ至リ非常ナル繁忙ヲ極メタリ。

第二期自明治三十八年一月十六日至同 十月十六日

明治三十八年一月一日旅順開城シ、同月中旬ヨリ第三軍北進ノ途ニ就キシヲ以テ獸醫材料ノ補充、水上蹄鐵ノ請求、尋常蹄鐵ノ返納等ニ最モ繁忙ヲ極メタリ。亦一方ニハ婆艦隊來航ノ爲メ大輸送品ハ續々到着セリ。

旅順鹵獲馬ハ二千餘頭ニ及ビ、内洋馬一千頭ニシテ之レニ對スル特大水上蹄鐵ノ請求頻繁ナリシヲ以テ之レガ應急ノ策トシテ大連防備隊工場ノ一部ヲ借り受ケ、應用材料ト輸卒鍛工ヲ集メ、五號以上ノ水上蹄鐵製作々業ヲ開始シ從テ製作セバ直チニ補充シ依テ以テ北進軍ノ行動ヲ容易ナラシメタリ。其數五百餘裝ニ及ベリ。

二月以降奉天攻撃準備ノ爲メ諸材料ノ請求頻繁ヲ極メタリ。殊ニ豫備蹄釘ノ請求多大ニシテ倉庫貯藏品ハ爲メニ空乏ヲ訴ヘントセリ。依テ前年倉庫開設前兵站線ニ散在シアリシ、尋常蹄鐵ヲ開梱セシメ、内容蹄釘ノ除錆作業ヲ遼陽支庫獸醫部ニ命ジテ應急ノ用ニ供シ其殘品ハ準備品トシテ必要ニ應ジ供用セリ其數實ニ十三個師團分ナリキ。

明治三十八年三月二十日奉天戰後、同地ニ支庫ヲ開設セラルルヤ直チニ蹄鐵工長ヲ先發シテ倉庫及諸設備ヲナサシメ、各軍ニ供給スベキ材料及蹄鐵ヲ貯藏シ亦各軍ニ於テ鹵獲セル蹄鐵ヲ收容シ、着々其整理ヲ行ハシメタリ。同四月ニ至

五

リテ各軍兵站監部該地附近ニ集合シ、戰後ノ補充材料ノ請求最モ多大ナリキ。
 五月上旬ニ至リ各軍北進ニ際シ不用氷上蹄鐵ノ返納尋常蹄鐵ノ請求頻繁ニシ
 テ其返納ノ如キハ亂雜ナル捆包ヲ以テ送り來ルニ由リ各支庫ニ於テ罐詰空箱
 ヲ利用シ蹄鐵箱ヲ製作セシメテ其區分ヲ明カニシ、以テ準備品トナセリ。其數
 各支庫ヲ通ジテ殆ド三個師團分ニ及ベリ。

五月七日鐵嶺支庫開設ニ付鈴木工長ヲ派遣シ諸準備ヲナサシム。

五月十六日新民屯出張所ニ於テ生牛購買ヲ開始セルヲ以テ八木沼工長ヲ派遣
 セリ。

六月六日ニ於ケル各庫獸醫蹄鐵工長ノ配屬左ノ如シ

大連 本倉庫 陸軍三等獸醫正萩原源次郎、陸軍一等獸醫手塚伸太郎、同騎
 兵一等蹄鐵工長尾東悅、同砲兵二等蹄鐵工長高野武次郎。
 遼陽 支庫 同三等獸醫中島龍夫、同騎兵二等蹄鐵工長萩原定次郎。
 奉天 支庫 同二等獸醫金森榮吉、同輜重兵一等蹄鐵工長稻葉仙吉。
 鐵嶺 支庫 同一等獸醫遊佐甚右衛門、同騎兵一等蹄鐵工長鈴木利雄。
 營口 支庫 同砲兵一等蹄鐵工長飯田右衛門。

新民屯出張所 同三等獸醫守田省二。

同 同騎兵一等蹄鐵工長八木沼喜重。

六七兩月間ニ於ケル獸醫材料及蹄鐵ノ補給ハ依然トシテ増加シ殊ニ各軍ヨリ
 規定外材料ノ請求特號入蹄鐵ノ請求等尠カラザリキ。

八月上旬奉天及鐵嶺附近ニ鷺口瘡發生シ病勢漸次増加ノ狀況アリ。爲メニ新
 民屯購買生牛ニモ輸送ノ途中傳染セルノ報アリシヲ以テ直チニ出張之レガ撲
 滅法ヲ講シ、同月下旬全ク絶滅ニ歸シ幸ニ著シキ損害ヲ被ラザリキ。
 九月中旬鹵獲蹄鐵箱ノ製作ニ着手シ、輸卒木工ヲ集メ罐詰空箱ヲ利用シ、約二週
 間ニシテ千四百個ヲ製造シ、奉天支庫ヨリ該蹄鐵ヲ廻收シ、之レヲ捆包シテ貯藏
 スルヲ得タリ。

十月初旬ヨリ各軍氷上蹄鐵ノ請求及尋常蹄鐵ヲ返納セルハ前年ト異ナルナク
 獸醫材料ノ請求ハ大ニ減少セルモ、同月十五日臨時軍馬檢疫規則ノ發布ニ伴ヒ
 檢疫ニ要スル諸材料ノ請求ニ應スル準備ヲナセリ。

本期間ニ於ケル人事移動ハ二月三十一日見習獸醫官守田省二着任、二月二十八日稻葉工長着任、三月七日依田工長衛生材料廠へ歸還、三月二十日稻葉工長ヲ奉天支庫附、三月二十三日中島獸醫着任遼陽支庫附、四月六日鈴木工長着任、五月七日鈴木工長鐵嶺支庫附、五月十六日新民屯出張所へ購牛ノ爲メ八木沼工長ヲ分遣、五月二十八日高野工長着任、五月二十九日營口支庫江口獸醫病氣入院後送ニ付遼陽支庫飯田工長ヲ分遣、六月六日手塚一等獸醫着任、同日金森獸醫着任、同月十三日守田獸醫ヲ生牛購買ノ爲メ新民屯出張所へ分遣、七月一日輜重兵三等蹄鐵工長井上喜策着任、同五日高野工長鐵嶺支庫附、八月七日守田獸醫病氣ノ爲メ大連へ歸還、同日金森獸醫ヲ新民屯へ分遣、同日中島獸醫ニ奉天支庫兼勤、八月二十一日騎兵一等蹄鐵工長本多勘二郎着任、八月二十四日江口獸醫歸任、奉天支庫附九月十八日磨工小關郁次同竹内久馬吉着任、十月七日日本多工長陸軍省ノ命ニ依リ歸還セリ。

之レヲ要スルニ本期間ハ補給及受入業務最モ繁劇ヲ極メ且副事業タル生牛購

買及傳染病發生等ノ爲メ著シク人員ノ缺乏ヲ感シ、爲メニ五月中ニ於テ増員稟申ニ依リ其増加ヲ見ルニ至リ遲滞ナク業務ヲ遂行シ得ルニ至レリ。

第三期 明治三十八年四月二十七日
同 三十九年四月二十日

三十八年十月下旬軍馬檢疫ニ要スル材料「マレイヌ」及皮下注射器、體温器ノ請求夥多ナリ。

同十一月一日鐵嶺支庫ヨリ第一回還送品到着ス。依テ之レガ整理業務ヲ開始セリ。十一月九日ヨリ凱旋軍隊ニ供給スベキ屠牛業務ヲ開始シ、大連屠牛場ニ於テ實行セリ。本期間ノ屠牛頭數三百三十一頭トス。

十二月五日倉庫專用屠獸場新築落成ヲ告ク。各軍ヨリノ返納材料及蹄鐵各支庫ニ集積シ、漸次大連本庫へ廻送シ來ルモノ増加ス。馬匹檢疫材料ノ請求ハ依然トシテ減スルナク殊ニ體温器ノ請求最モ頻繁ナリ。本期間ニ於ケル屠牛頭數六百九拾七頭トス。

三十九年一月獸醫材料及蹄鐵ノ補充ハ大ニ減少セルモ檢疫用體温器及皮下注

射器及其他材料ノ請求ハ尠カラザリキ。

一月十九日ヨリ各軍返納ノ鑄釘ノ除錆法ヲ開始シ、引續キ遼陽支庫貯藏ノ該品モ除錆セシメタリ。其數量四拾九萬本ニ及ベリ。本一ヶ月間ニ於ケル屠牛數五百六拾八頭トス。

二月上旬蹄釘除錆作業ヲ中止シ、殘品ハ宇品貨物廠ニ還送ス。同中旬各支庫ヨリ還送シ來ル材料續々到着シ、之レガ整理ニ最モ繁忙ヲ極メリ。二月中ニ於ケル屠牛數四百五十六頭。

三月八日第一回内地還送蹄鐵ヲ發送ス。同月十六日第二回還送獸醫材料及蹄鐵ヲ發送ス。同二十五日第三回還送獸醫材料及蹄鐵ヲ發送ス。同二十九日第四回同上三月二十五日各支庫現品検査及貯藏品制定ノタメ各支庫ヲ巡視ス。

三月下旬検査所諸材料ノ返納ヲ受ク之レヲ要スルニ二三兩月間ハ全ク還送品ノ整理作業ニシテ材料箱ノ製作、梱包受入搬出等ノ業務ノ爲メ殆ト忙殺セララルガ如キ狀ナリキ。

四月上旬検査所返納材料ノ整理及梱包ヲナス。四月十二日滿洲軍倉庫復員ヲ命ゼラレ、同時ニ關東陸軍倉庫ノ編成發布セララル。依テ殘務員及歸還者ヲ定メ殘務ヲ處理ス。

四月二十日關東陸軍倉庫編成完結セルヲ以テ諸材料及蹄鐵ヲ該倉庫ニ引繼ギ茲ニ滿洲軍倉庫獸醫材料業務終了ヲ告ゲタリ。

本期間ニ於ケル業務ノ著シキモノハ還送品ノ整理ニシテ、各軍ヨリノ返納品ハ送狀ト現品ト相一致セザルノミナラズ、其梱包法甚ダ粗雜ニシテ到底貯藏及輸送ニ堪ヘザルヲ以テ之レヲ開梱シテ詰換ヘ及ビ手入等ヲ行ヒ完全ニ保存及輸送シ得ル如ク梱包ヲ行ヘリ。

又本期間ニ於ケル人事移動ハ十月十九日手塚獸醫大連軍馬検査所ニ、守田獸醫辛碓泊所司令部附ニ轉シ、十一月八日一等獸醫牧野鈴太着任、十一月十日江口獸醫本庫附、二月十日牧野獸醫舊所管ニ復歸、三月十三日高野工長本庫附、滿洲軍倉庫復員ニ付殘務員左ノ如シ。

大連 陸軍三等獸醫正萩原源次郎 遼陽 同二等獸醫正中島龍夫同騎兵一等蹄鐵工長萩原定次郎 奉天 同輜重兵一等蹄鐵工長稻葉仙吉 關東陸軍倉庫職員左ノ如シ。

大連本倉庫 陸軍一等獸醫手塚伸太郎同騎兵一等蹄鐵工長長尾東悅同騎兵

一等蹄鐵工長中川半左衛門。

遼陽支庫 同輜重兵二等蹄鐵工長井上喜策。

奉天支庫 同砲兵一等蹄鐵工長宇佐美兵助。

鐵嶺支庫 同砲兵一等蹄鐵工長飯田右衛門。

營口支庫 同輜重兵二等蹄鐵工長澁谷重太郎。

安東縣支庫 同砲兵三等蹄鐵工長加藤辰次郎。

附一、新民屯生牛購買概況

奉天戰後新民屯ニ出張所ヲ設置セラレ五月下旬ヨリ生牛購買ヲ開始セリ。コレ三十七年十月ヨリ五月上旬迄營口支庫ニ於テ屠牛業務ヲ行ヒ以テ生肉ヲ各軍ニ供給セシト雖氣候漸次温暖トナリ肉ノ保存困難トナリシヲ以テナリ。依テ營口支庫ヨリ八木沼工長(獸醫免狀所有者)ヲ派遣シ、六月中旬ニ至リテ業務益々盛況ニ至リシヲ以テ守田獸醫ヲ派遣シ、該業務ニ從事セシム。業務ノ概況左ノ如シ。

一、購買ノ方法 先ヅ全般ニ就テ傳染病ノ有無ヲ概見シ、疑ハシキモノハ直チニ退去ヲ命ジ、其ノ後チ一磅或ハ一頭平均價格ヲ決定シ、彼我契約ヲ終レ

バ各牛ニ就キ疾病ノ有無營養ノ狀態、歩様、其他ニ就キ精細検査シ、合格牛ニハ左醫ニ(フ)字形ヲ烙印ヲ印シ、頭繩ニハ買入レ月日並ニ番號ヲ記セル布片ヲ結着シテ繋畜場ニ送り、又不合格牛ニハ竊ニ飯粒ヲ耳内保護毛ニ粘着シテ他日ノ識別ニ便セリ。コレニ日數百頭ノ検査中時ニ或ハ奸商ノ術ニ陥ルコトナキヲ保シ難ケレバナリ。

二、生牛ノ產地營養ノ狀態 主ニ山東產、次テ蒙古產、偶々直隸產牛ヲ混スルコトアリ。是等ハ皆チ遠ク關内外ノ鐵路ニ依リ輸送セララルモノニシテ一般ニ疲憊ノ狀態アルヲ認ム。今各產地別ニ由リ肉牛トシテノ價值ヲ概論スレハ左ノ如シ。

(イ) 山東產牛ハ毛色、赤、薄赤、多ク角ハ短クシテ根部ヨリ尖端ニ至リ漸ク細少トナリ少シク前方ニ彎曲ス。眼ハ大ニシテ温和ナル顏貌ヲ呈シ、頸ノ上部ハ細ク、肩、胸部ニ至リ漸ク増大ス。四肢短ク、體軀肥腴シ、殆ト長方形ヲナシ肩胛部ヨリ尾端ニ至ルマデ殆ト平坦體量普通九百磅ヨリ一千四百磅、肉牛トシテ亞細亞ノ短角種タルノ價值ヲ有シ概シテ奄牛ナリ。然レトモ皮毛纖軟體質弱ク氣候食物ノ影響ニ感シ易キ缺點ヲ有ス。

(ロ) 直隸產ハ永平府樂洲地方ヨリノモノ多ク山東牛ニ類似スルモ頭扁口邊ニ至リ少シク上方ニ彎曲(俗ニ杓子顔ト云フ)毛色ハ黑尤モ多ク角ハ扁大ニシテ左右ニ挺出スルモノ多キガ如シ。
(ハ) 蒙古產牛ハ黑、虎毛最モ多ク被毛粗剛角ハ長ク(普通一尺二)尖端細少トナ

リ上方ニ彎曲ス眼ハ小クシテ相貌極メテ瘠惡ナリ。頭頸及四肢短ク腹垂大、上肩部ヨリ尾端ニ至リ隆起シ肉付ハ中等肉牛トシテノ價值ハ第三位ナルモ之レヲ飼養シ管理宜シキヲ得レハ或ハ山東牛ヲ凌駕スルナランカ。

一般ニ皮膚厚ク毛被粗剛強健能ク氣候粗食等ニ堪ユルノ性ヲ有ス。

(二) 產地別屠肉量(附近部隊ニ給與セシ)

生前 九百磅ノ山東牛 屠殺後肉骨共 四百九十磅
生前 九百磅ノ蒙古牛 同 四百三十磅

三、價格 購牛期間ニ於ケル價格ノ高低ハ殆ト市場ニ於ケル相場ノ高下ト同シク需用多キカ輸入少ナケレバ直チニ騰貴シ、著シク輸入シ來レバ直チニ低落スルハ一般ノ物價ノ高低ト異ナルナシ。然レドモ之レヲ平均セバ一磅拾錢ヨリ拾參錢ノ間ヲ昇降シ、全般ノ平均ニ於テ拾壹錢強ニ相當セリ今牛商ニ就キ山海關方面ニ於テ調査セル價格及輸送費及雜費ノ概算ヲ掲グレバ左ノ如シ(山東牛ノ輸出地ハ天津及山海關ナリ)

山東牛(約九百磅)一頭 山海關ニテ 七拾圓
汽車輸送費 一頭 山海關ヨリ新民屯拾五圓
實際ノ輸送費ハ拾圓ナルモ五圓ハ油差料ト云フ
輸送雜費(購買市へ出場チ出ス) 四圓
市場費(購買市へ出場チ出ス) 壹圓
計 九拾圓

即チ一磅拾錢ニ相當ス之レヲ要スルニ關外鐵道ニ於テハ汽車賃以外ノ費用ヲ支拂ハザレバ中間驛ニ於テ連結ヲ解キ放置スルヲ以テ牛商ハ不得止、コムミツシヨシヲ拂ヒ輸送ヲ迫ルガ如キ狀況ニシテ殊ニ夏季炎暑ノ候汽車中ニ於テハ給水等ノ設備ナク只粟稗ヲ投與スルノミナルヲ以テ給養不充分ノ結果斃死セルモノアリテ缺損率約百分ノ二ヲ見込ミ居ルガ如シ。

而シテ新民屯購牛場ニ於テ不合格トナリシ生牛ノ販路ハ法庫門及鐵嶺方面ニシテ之レ亦鮮少ナラザル數ナルベシ。

四、新民屯出張所ニ於テ購買生牛數別表ノ如シ。

旬	別	頭數	旬	別	頭數
三十八年五月下旬		一八九	三十八年八月中旬		一八七六
同 六月上旬		八八一	同 八月下旬		一一〇七
同 六月中旬		二二七	同 九月上旬		一二五
同 六月下旬		一一三三	同 九月中旬		二二
同 七月上旬		一一一八	同 九月下旬		三九
同 七月下旬		二〇七八	同 十月上旬		三三
同 七月上中旬		一八六二	同 十月中旬		一四八
同 八月上旬		二〇九三	計		一三〇四二

附二、獸醫材料及蹄鐵改良意見

一、補充系統ニ就テ 今回ノ戰役ニ於テ補充令ハ滿洲軍倉庫ヨリ獸醫材料及蹄鐵ヲ補充スベキ明文改正シ居ラザルヲ以テ請求ノ方法區々ニシテ開設當時ニ於テハ甚ダ複雑ナル手數ヲ要セリ例令ハ蹄鐵ニアリテ豫備馬廠ヨリスルアリ師團副官部ヨリスルアリ獸醫部ヨリスルアリ各隊各個ニナス等殆ド一定ナラザリシ爲メ分配發送ニ尠カラザル困難ヲ來セリ殊ニ新來ノ部隊ニアリテハ殆ド滿洲軍倉庫アルヲ知ラザルガ如キモノアリ依テ將來ニ於テ之等ノ機關ヲ戰時編成中ニ加フルトセバ補充令ニ明瞭ナル補充系統ヲ示シ置クノ必要アルモノト信ズ。

二、獸醫材料ニ就テ 戰用獸醫材料ニ就テハ平時充分研究シ調製セルヲ以テ著シキ非難スベキ點ナキガ如シト雖未ダ今回ノ戰役ノ如キ永時日間經驗セルガ如キハアルナシ即チ日清戰役ノ如キハ近々十有餘月ナリシ然ルニ今回ノ如キハ最初出發セル部隊ニアリテハ凱旋迄一ケ年十餘ヶ月ニ及ビシヲ以テ其破損モ亦少ナカラザルナリ而シテ其最モ多數ノ請求ヲ受ケタルモノヲ列記セバ左ノ如シ

馬藥囊、瓦秤、皮下注射器、偪里設林灌腸器、毛刈剪、寒暖計、鼻捻兼送藥器、液量器、檢溫器、齒齒、外科刀等ナリ

獸醫材料中行李及醫板、携具、馬藥囊ノ内其破損ノ最モ著明ナル部分ヲ列記セバ左ノ如シ。

- (1) 行李及醫板、内箱ノ破損多シ
 - (2) 同上掛子ノ破損多シ
 - (3) 同上中隔ノ破損多シ
 - (4) 藥匣ノ破損多ク且粉末藥品ハ蓋ノ空隙ヨリ飛散シ著シク汚染ス
(即チ沃度仿謨、散布劑ノ如シ)
 - (5) 創桶ノ破損多シ(冬期間火上ニ掛クルヲ以テ「ハンダ」ノ脫離セルモノ多シ)
 - (6) 護謨管ノ彈力ヲ失シ龜裂ヲ生ズルモノ多シ之レ亦冬期間寒氣ノ爲メ變質セルナランカ
 - (7) 提灯ハ燒損セルモノ多ク發條ノ強力ナル爲メ點火ニ困難ナリト
 - (8) 行李、板携具ハ内容外科具ニアリテハ中隔ノ護謨製ナルモノハ折損ジテ器械ノ破損ヲ來セルモノ尠カラズ
 - (9) 同上皮下注射器ハ針ノ折損護謨球ノ龜裂調節螺子ノ磨滅、硝子筒ノ破損等ヲ多シトス
 - (10) 馬藥囊ハ外被麻布製ナルヲ以テ雨季ニ會シ雨水ニ濕潤セバ忽チ糊分取去ラル、ヲ以テ柔軟トナリ保存期ヲ短縮シ亦内容、グリスリン灌腸器ノ硬護謨製ノモノハ口扁ヨリ折損スルモノ多ク藥囊内容、グリスリンハ濕潤シテ外囊迄浸出セルアリ藥匣ハ粉末飛散シテ消毒材料ヲ汚損スル等ハ其主ナルモノナリ
- 嘗テ三十八年五月中師團獸醫部長並ニ兵站獸醫部長ニ向テ將來補充ヲ要ス

ベキ獸醫材料ノ數量ヲ問合セタルニ行李、板、馬藥囊、携具等ノミニテモ左ノ如キ數ニ及ビタリ
 行李甲三六、同乙二九、板一三、携具四七、馬藥囊七四、其他内容器械類ノ補充夥多ナリ
 亦還送品整理ニ際シテ各軍ヨリ返納セル破損品ハ別表ノ如シ

獸醫材料破損品調査表

品目	修理見込ニ付内地還送		倉庫ニテ修理		計	品目	修理見込ニ付内地還送		倉庫ニテ修理		計
	付内地還送	倉庫ニテ修理	廢品	計			付内地還送	倉庫ニテ修理	廢品	計	
倒馬器	三六				三六	吸入器	一〇				一〇
獸醫板	三三				三五	平打繩	一一				一一
獸醫行李甲	二五				二八	胴繩	一七				一七
同乙	一一				一二	解剖刀	一七				一七
消毒噴霧器	八				八	檢蹄器	一一				一一
去勢用捻鑷子	四三八				四三八	寒暖計	八				八
馬藥囊	一二八				二七四	外科刀	二九七				二九七
皮下注射器	一九三				二五七	把鉞	二〇				二〇
獸醫携具	三一				三三	把鉞	二〇				二〇
膿盤	二三				六八	手術衣	一〇				一〇
						動脈鑷	三七				三七
						手術衣	五〇				五〇
						把鉞	四				四
						外科刀	一七五				一七五
						把鉞	三				三
						檢蹄器	二				二
						解剖刀	一七				一七
						胴繩	一七				一七
						平打繩	一一				一一
						吸入器	一〇				一〇
						計	一一〇				一一〇

温保毛布	一、二三〇					水牛匙	一三				五四
腹帶	五五〇					縫創針	七四				一六一
提灯	一〇五					爪刷毛	四				四
革	二一					カテーテル	二				二
灌腸器	三					開口器	二				二
イルリガードル	三八					齒鉞	三				三
アリスリン灌腸器	一〇二					齒鉞	三				三
創栓子	二九					硬ゴム注射器	七				七
拔栓子	一〇					齒鉞	三				三
ゴムスポイト	一〇					毛刈鉞	三				三
瓦	六					櫛齒鉞	四一				四一
雜用剪	四二					櫛齒鉞	二六〇				二六〇
膏藥篋	六五					檢溫器	一				一
刺絡針	三五					有溝探子	二九				二九
兩及柳葉刀	六					套管鉞	三〇				三〇
銳針匙	二七					ヘルニヤ刀	一三				一三
帽針	四八					カテーテル	一				一
通銅匙	二一					馬藥囊内容器	一				一
黃銅匙	二二					亂切刀	八〇				八〇
						鯨製探子	三				三
						計	三八				三八

細少探子	顯微鏡屬具	最高最低寒暖計	藥匣	點眼子	液量器	黃銅罐
一六	一	二	二〇	三四	四	八
一六	一	二	二〇	三四	四	八
外科剪	卸頭外科刀	曲刀	彎刀	S狀探子	鼠齒鑷子	鼻捻兼送藥器
七三	二二	二五	四三	一八	一六	一〇
四	一	五	七	六	五	一
七七	二二	三〇	五〇	二四	二一	一七

以上列記セル破損材料ニ就テ大體ノ改良意見ヲ開陳セハ現行戰用獸醫材料ハ概シテ巧妙薄弱ニシテ永時日ノ使用ニ堪ヘサルガ如シ若シ夫レ保存者ニ於テ完全ナル管理ヲ施スモノトスルモ輸送上ノ取扱等ハ到底粗暴ヲ免レザルヲ以テ戰用品トシテハ巧妙ナルヨリ寧ロ頑固ニシテ堅固ナルモノヲ選擇スルノ必要アルカ如シ而シテ兵站病馬廠ノ如キ移動ノ少シクシテ重症患馬ヲ收容スル場所ニアリテハ行李或ハ極ヲ以テ満足スル克ハス依テ之等ニ要スル材料ハ特別ニ規定スルノ必要アルヲ感スルナリ

三 蹄鐵及蹄釘

一、蹄鐵ニ就テハ使用部隊ニ於テ著シキ異議ナキカ如シ然レトモ其入組法ニ就テハ各號別入ヲ可トスルアリ(殊ニ雨季ニアリテハ蹄形一號丈ケ膨大スト云フ)亦ハ各號入組ヲ可トスルアリ要スルニ其師團ニ於テ動員前馬匹検査ニ

依テ調製セル蹄鐵號數ト實際ト稍ヤ異ナルアリ亦馬匹ノ漸次變遷スルト共ニ蹄形ノ大小ニ影響スル等ニ原因スルヤ必然ナリ故ニ將來ニ於テハ特ニ何師團用トナスヲ全廢シ各號別入及各號入ノ二種ニ區分シ補充セハ彼我融通シ得ルノミナラス蹄鐵ノ經濟ナル明瞭ニシテ其實例少ナカラサルナリ

二、九州及四國產馬ヲ除キ最モ多數ナル蹄鐵號數ノ所要ハ三號ニシテ四號之レニ次キ二號五號之レニ次ク而シテ一號及六號ニ至リテハ日本馬ニ對シテ其所要甚ダ微々タリ而シテ大ニ失スルハ使用上差支ヲ生セサルモ小ニ失スレハ到底使用シ克ハサルナリ

三、蹄鐵箱ハ其重量稍ヤ重キニ失シ運搬卸脱上其取扱方亂暴ニ傾キ易ク爲メニ破損セルモノ少ナクアラサルナリ依テ之レヲ號數入組ニ應シ十貫目以内ニ減量セバ便利ナランカ但シ裝數ハ可成計算シ易キ數ナラシムルヲ要ス

四、蹄鐵箱ノ形狀ニ就テハ一定ナラサル可カラシ之レ運搬堆積等ニ不尠影響ヲ蒙レバナリ而シテ可成扁平ナルモノハ取扱上便利ナルガ如シ

五、蹄鐵箱ノ木質ハ杉及松ノ二種ナルモ松ハ脆弱ニシテ摧折シ易ク密接部乾燥ノ爲メ空隙ヲ生シ雨雪ノ浸入ヲ容易ナラシムルヲ以テ到底蹄鐵箱トシテノ性能ヲ有セス之レニ反シテ杉ハ粘着力ヲ有シ彈力アリテ良ク之レニ堪ヘ破損又小數ナリ

六、蹄鐵內容釘箱(武力罐)ハ動搖ノ爲メ罐壁ニ無數ノ孔ヲ穿チ(釘尖ニテ)不完全ノ外箱ナル時ハ空隙ヨリ雨水浸入シ遂ニ罐内ニ滞留シテ發錆シ使用ニ堪ヘ

ザルニ至ル(一昨年雨季即チ倉庫開始前各兵站部ニ散在シアリシ蹄釘殆ト發
銷シ居ラザルモノナカリシ)

七、新陳交換等ノ目的ニテ平時ニアリテ戰時品ヲ貯藏スル時ハ蹄鐵及釘ハ各
別箱入トナスヲ利アリトス亦追送品ニ於テ各別トシテ差支ナシ即チ大部隊
ニ於テハ反テ便利ナルガ如シ即チ蹄釘缺乏ノ爲メ各蹄鐵箱ヲ開箱シテ使用
スル等ノ不便ナキヲ以テナリ。

八、滿洲ノ野ハ砂礫少ナキヲ以テ蹄釘ノ磨滅亦著シカラズ或人ノ説ニ依レバ
改装セハ二回ハ使用シ得ヘシト故ニ豫備釘ハ少ナクモ一回分ハ常ニ準備シ
置ク要アリ。

九、氷上蹄鐵ノ使用時季ハ各部隊ニ依リ各々異ナルト雖兩年間ニ於ケル請求
ノ狀況ニ依テ見ル時ハ一冬季間ニ二分ニテ足ルガ如シ。

十、鐵蹄ハ磨滅著シク騎兵乘馬ノ如キハ盛ニ運動セバ四五日間ノ効力ヲ有ス
ルノミナリト然ラバ常ニ多數ノ豫備ヲ準備スルノ必要アリ。

十一、三翅形鐵蹄ニ就テハ各方面ノ意見ニ依レバ鐵質粗惡ノ爲メ折損セルモ
ノ比較的多ク若シ一個ノ折損アラハ支柱ニ障害ヲ來スノミナラズ螺子ヲ拔
去ル事克ハサルヲ以テ甚ダ不便ナリト云フ亦其螺子ノ不正ニシ候合意ノ如
クナラザルモノアリト。

十二、固定式氷上蹄鐵ハ輻重鞍馬ニ使用スル規定ナリト雖モ實際上一般ニ
悅テ使用セザルノ傾向アリ亦實用上螺旋式ニ比シ不經濟ナルガ如シ例令ハ

前鐵蹄磨滅セハ効力ナキノミナラス再用スル克ハズシテ改装ノ手數ヲ要ス
ルヲ以テナリ況ヤ蹄鐵缺乏ノ場合ニ際會スルモ尋常鐵トシテ使用シ能ハザ
ルハ此式ノ缺點トス若シ強テ之ノ式ヲ使用セント欲セバ改良ヲ加ヘ半螺半
固定式トナスヲ要ス即チ鐵尾ヲ屈曲シ前鐵蹄ヲ一個トナシ螺旋ナラシメバ
僅少ナル手數ニ依リテ兩用ニ使用シ得ルノ利アルカ如シ之レ鹵獲蹄鐵中此
種ノモノアルハ其所以ナランカ。

十三、蹄釘ニ除錆法ヲ施スノ必要ハ戰用品ノ貯藏及戰時追送品ニ對シ最モ緊
要ナリト思考ス即チ蹄鐵囊ニ雨水ノ浸入セバ忽チ發錆シ使用上困難ヲ來ス
ベシ亦箱入品ニ於テモ罐ノ破裂或ハ釘尖ニ依リテ穿孔等ヨリ一朝雨雪ニ曝
露セバ發錆ヲ來シ易シ故ニ豫メ「ウワニス」或ハ錫塗金法ニ依リ防錆法ヲ施シ
置クノ要アリ之レ今回ノ戰役間當庫ニ於テ除錆セル蹄釘ニ依テ明ナル例證
ナリトス

自明治三十七年八月 至同三十九年四月 獸醫材料總受拂表

品目	受		入							出		還送	殘	
	稱	數	廠衛材	貨物廠	其他	計	支庫陽	支庫口	支庫奉	支庫鐵	其他			計
沃	リ	磅												
溶製石炭酸														
度														

沃度加德謨	沃度仿謨	沃度丁幾	華攝林	胃散	鹽酸古加乙涅	鹽酸必魯加兒必涅	鹽酸莫兒比涅	稀鹽	佩里設林	醋酸鉛末	散布劑	的列並底油	甘汞	昇汞	撒里知爾酸	撒里知爾酸那篤留謨	亞鉛華
磅	ク	ク	ク	ク	瓦	ク	ク	磅	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400

亞鉛華軟膏	硫酸亞篤魯必涅	硫酸比蘇斯知爾密涅	硫酸那篤留謨	硫酸亞鉛	安知歇貌林	格魯兒拔留謨	格魯兒那篤留謨	古魯胃謨	冰醋酸	單寧酸	重碳酸那篤留謨	芥子末	芥子油	丹納仿謨	阿列布油	樟腦精
瓦	ク	ク	ク	ク	ク	瓦	磅	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400
1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400	1.400

テザンヘクトール	抱水格魯拉兒	安母尼亞水	芫菁膏	ヒノゾール	梅野氏腺疫豫防液	豫防液(第一苗)	炭疽(第二苗)	蹄軟膏	單軟膏	倔答百兒加	薄荷腦	次硝酸蒼鉛	硫酸エゼリン	硼酸	イヒチヲール	伴創膏	依的兒
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

驅虫粉	武蘭垚酒	白糖	メチールアルコール	珊瑚尼涅	阿片	甲獸醫材料箱	乙獸醫材料箱	丙獸醫材料箱	丁獸醫材料箱	吐酒	酒	藥用石鹼	溶製硝酸銀	明礬末	木蓼兒	カンフル液	硝酸加留謨
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

澱粉	硫酸	岡田炭素	碓氷	硝	載物測微器	色素容器	コルネット鍍子	キシロール	柯々阿脂	鹽製石	煨製灰	蘆薈末	硫酸礬	輕食粉	昇汞鹽	碓氷	岡田炭素	硫酸
ク	ク	合	ク	瓦	組	ケ	個	瓦	ク	磅	匁	ク	磅	瓦	ク	磅	合	ク
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

顯微鏡用藥品	船舶用獸醫極藥品	コロイド銀	鹽化アトリナリン	チエルデル油	蒸溜水	巴拉賓	クレンシン	水銀軟膏	龍膽末	人工カル、ス泉鹽	顯微鏡用色素	嘔囉仿	蓖麻子油	金硫黃	昇汞錠	甘汞錠	杜松子末
具	具	弓	瓦	弓	磅	ク	ク	ク	ク	ク	瓦	磅	リ	ク	ク	ク	ク
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
10	10	10	10	10	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

硝子棒	硝子護管	冷却用紙	報告用紙	去勢術用木	貫綿糸	安全針	濾過紙	點眼子	デツキグラス	オアセクトグラス	硝子角瓶	硝子細口瓶	硝子廣口瓶	體溫表用紙	曲物紙	硫酸紙	球系	色素吸藥方	
本	個	個	枚	個	把	本	枚	個	枚	個	個	個	個	枚	個	枚	個	枚	寸
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

備考	藥名	札	個
一 受入ノ内其他ハ主トシテ各部隊ヨリノ返納品	皮下注射器用ゴム口	個	100
二 拂出ノ内其他ハ部隊直接補充トス			

自明治三十七年九月 水上尋常蹄鐵總受拂表
至明治三十九年四月

品目	數	入				出				殘
		貨物	廠其他	計	拂	營口鐵嶺其他	計	還送		
近衛師團										
尋常蹄鐵	裝									
水上蹄鐵	固定式									
尋常蹄鐵	螺旋式									
第一師團										
尋常蹄鐵	固定式									
水上蹄鐵	螺旋式									
尋常蹄鐵	固定式									
第二師團										
尋常蹄鐵	螺旋式									
水上蹄鐵	固定式									

へ轉出、同二十七日吉川庫手入院(赤痢後送)十月二日庫手鍋澤宗太郎到着ス。
明治三十七年九月ヨリ十月ニ至ル間到着セシ材料ハ左ノ如シ。

入港月日	船名	積載材料名稱	捆數	摘要
九月十五日	第二永田丸	獸醫材	一、四〇〇	大連ヨリ
九月二十三日	日能ノ丸	蹄醫材	一、九二五	宇品ヨリ
同	同	蹄醫材	一八二	大連ヨリ
同	同	蹄醫材	一三一	大連ヨリ
同	同	蹄醫材	八九	宇品ヨリ
同	同	蹄醫材	五七	宇品ヨリ
九月二十七日	頼朝丸	蹄醫材	一、二八〇	宇品ヨリ
同	同	蹄醫材	五一四	宇品ヨリ
十月一日	福山丸	蹄醫材	一、〇二	宇品ヨリ
十月四日	日出丸	蹄醫材	一、四六一	宇品ヨリ
同	住江丸	蹄醫材	八一	大連ヨリ
十月八日	盛運丸	蹄醫材	二四	宇品ヨリ
十月十二日	勢德丸	蹄醫材	二五七	宇品ヨリ
十月十七日	江陽丸	蹄醫材	九二三	宇品ヨリ
同	滿珠丸	蹄醫材	九二三	宇品ヨリ

同	南越丸	蹄釘	七〇	宇品ヨリ
十月十九日	高津丸	蹄鐵	八三〇	宇品ヨリ
十月二十日	能登丸	蹄鐵	一、九〇四	宇品ヨリ
十月二十九日	勢德丸	蹄醫材	四	宇品ヨリ
同	福山丸	蹄鐵	二五七	宇品ヨリ

十一月二十四日飯田工長遼陽支庫ニ轉出シ同日八木沼工長到着セリ。
三十八年五月十七日八木沼工長ハ新民屯出張所へ輸出シ同三十日江口獸醫入院ス同日飯田工長遼陽支庫ヨリ轉入セリ。
明治三十八年四月ヨリ九月ニ至ル間到着セシ材料ハ左ノ如シ。

入港月日	船名	積載材料名稱	捆數	摘要
四月八日	芙蓉丸	蹄鐵	五九九	宇品ヨリ
四月二十八日	千島丸	蹄鐵	七四六	宇品ヨリ
六月十一日	敦賀丸	蹄鐵	五九九	宇品ヨリ
六月十八日	旺洋丸	蹄鐵	八〇〇	宇品ヨリ

七月十三日	金澤	九	鐵	九〇	宇品ヨリ
七月十八日	伊吹	九	鐵	七九	宇品ヨリ
八月十六日	越山	九	鐵	四八〇	宇品ヨリ
八月二十七日	勝州	九	鐵	六〇〇	宇品ヨリ
九月三日	九	九	鐵	四四〇	宇品ヨリ

五〇

三十八年九月二十一日八木沼工長復歸シ十月八日飯田工長鐵嶺支庫へ轉勤セリ。

十一月五日備員鍋澤宗太郎大連本倉庫へ轉出セリ。

開始以來巡視セラレタル諸官ハ左ノ如シ。

- 明治三十七年十月二日 陸軍省軍務局員 隈部 騎兵少佐
- 同 十一月二十日 遼東守備軍獸醫部長 柳澤 二等獸醫正
- 同 三十八年四月二十七日 倉庫獸醫材料係主任 萩原 三等獸醫正
- 同 三十八年八月十八日 倉庫獸醫材料係主任 萩原 三等獸醫正
- 同 三十九年四月五日 倉庫獸醫材料係主任 萩原 三等獸醫正

獸醫材料受拂表

自明治三十七年九月十五日
至同三十九年四月二十日

品目	稱數		入	拂		出	殘
	大	連		計	陽		
溶製石炭酸	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
沃度加留	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
沃度仿	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
沃度丁	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
華攝	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
胃散	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
鹽酸必魯加兒必	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
鹽酸莫兒比	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
稀鹽	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
倔里設	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
醋酸鉛	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
散布	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	
的列並底油	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	

五一

精製樟腦	樟腦精	依的兒膏	伴創膏	イヒチヲール	硼酸鉛	次硝酸蒼	薄荷荷腦	佩答兒加	單軟膏	ヒノゾール	抱水格魯拉兒	驅虫粉	武蘭堉	白糖	メチールアルコール	甲獸醫材料箱	乙獸醫材料箱	
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

甘汞	昇汞	撒里知爾酸	撒里知爾那篤留謨	亞鉛華軟膏	亞鉛華軟膏	硫酸亞篤魯必涅	硫酸那篤留謨	硫酸亞鉛	安知歇貌林	格魯兒那篤留謨	古魯胃謨	氷醋酸	單寧酸	重炭酸那篤留謨	芥子末	丹納仿謨	阿列布油	
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

品名	單位	受拂表						計出	殘
		入	拂	其他部隊	返	送	計		
鋼裝帽子	本								
報告用紙	枚	100							
去勢術用榨木	個	50							
安全針	本	5000							
濾過紙	枚	100							
硝子角瓶	個	50							
木栓付硝子細口瓶	瓶	50							
木栓付硝子廣口瓶	瓶	50							
曲木	物	50							

自明治三十七年九月
至明治三十九年四月
氷上蹄鐵受拂表

品名	單位	受拂表						計出	殘
		入	拂	其他部隊	返	送	計		
近衛師團	裝								
尋常蹄鐵	裝	1985							
氷上蹄鐵	裝	3500							
尋常蹄鐵	裝	525							
尋常蹄鐵	裝	685							

師團	品名	單位	受拂表						計出	殘
			入	拂	其他部隊	返	送	計		
第二師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第三師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第四師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第五師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第六師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第十師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							
第十二師團	氷上蹄鐵	裝								
	螺旋式	裝	100							

備考	第五師團(蹄釘)	第六師團(同)	第十師團(同)	第十二師團(同)	騎兵第一旅團(同)	騎兵第二旅團(同)	砲兵第一旅團(同)
前記滿洲軍總豫備軍ノ尋常蹄鐵ノ拂出ハ區別アリ、(リ)印ハ遼陽(ホ)印ハ奉天(テ)印ハ鐵嶺(ム)印ハ撫順(フ)印ハ部隊渡(ヂ)印ハ事故拂トス	裝	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000

第三章 遼陽支庫獸醫材料業務概況

(本編ハ主任陸軍二等獸醫中島龍夫ノ報告ヲ以テ之レニ充ツ)

明治三十七年九月二十四日遼陽支庫獸醫材料並ニ蹄鐵事務ヲ開始シ明治三十九年四月二十一日復員シ殘置ノ諸材料ハ關東陸軍倉庫ヘ引繼ゲリ。今既往十九ヶ月間ノ業務狀況ヲ左ノ三期ニ分チ報告ス。

第一期 自明治三十七年九月二十四日 至同 年十二月三十一日

創業當時ノ人員ハ陸軍騎兵一等蹄鐵工長依田盛之、陸軍騎兵三等蹄鐵工長荻原定次郎、庫手戸田信吉、同黒川藤吾、陸軍砲兵二等蹄鐵工長飯田右衛門十一月二十日着任、増加ニシテ創業ニ際シ材料ノ出入漸次頻繁トナリ材料ノ格納上倉庫ノ設備ニ付キ苦心セシモ適當ノ倉庫ナク漸クニシテ四十坪一棟三十坪一棟十二坪一棟ノ支那家屋ヲ修理シ是レヲ獸醫材料ノ格納倉庫トナセリ。蹄鐵ハ員數ノ多大ナル爲メ適當ノ倉庫ナク遺憾ナカラ全部野積トナシ「アシペラ」ヲ以テ天蓋トナセリ。然レトモ幸ニシテ降雨ナキ爲メ貯藏上差支ヲ惹起セザリキ。獸醫材料ハ專ラ其貯藏法ニ注意シ寒熱乾濕遮光換氣ニ付キ相當ニ處置シ其品質ニヨリ貯藏室ヲ區分シ時ニ原品ニ付キ検査ヲ行ヘリ。又本期ハ雜務繁多加之職員ノ倉庫業務ニ經驗乏シク滿洲軍中第三軍ヲ除クノ外全軍ニ補給シ業務多忙ナリシモ、職員ノ熱心ト幸ニシテ戰況上各軍ノ直接交附部隊當地附近ニ集中セシ爲メ補給上輸送ノ困難ヲ免レ補給ニ付テハ不都合ヲ生ゼザリキ。

第二期 自明治三十八年十一月十六日 至同 年十月十六日

本期ノ職員ハ陸軍騎兵一等蹄鐵工長依田盛之、三十八年二月二十日內地歸還陸軍二等獸醫遊
 佐甚衛門三十八年四月十九日奉天支庫附陸軍三等獸醫中島龍夫三十八年四月
 陸軍砲兵一等蹄鐵工長飯田右衛門三十八年六月三日營口支庫附陸軍騎兵二等蹄鐵工長荻原
 定次郎庫手戸田信吉同黒川藤吾三十八年五月七日病氣後送同小池良平三十八年三月二十
月十三日奉天支庫附ナリシガ當時奉天附近會戰前ニシテ兵力益々増加シ前期ニ於テハ
 直接受給部隊ノ當地附近ニ集駐シ居リシ爲メ補給上輸送ノ困難ヲ免レシモ、軍
 ノ行動準備ニテ鴨綠江軍第三軍兩翼ニ延伸シ軍ノ前進ト共ニ、右翼兵站線ハ鳳
 凰城、賽馬集、永陵、東八家子ヘ延長シ又左翼兵站線ハ小北河方面ヘ漸次延長スル
 等前期間ヨリ軍ノ増加交附所在地ノ遠隔スルニ從ヒ、補給業務非常ニ繁忙ニテ、
 材料發送毎ニ率領者ヲ附セシニ關ハラズ、動モスレバ發送材料ノ延、不着ノ悲境
 ニ陥ルヲ免レズ、而シテ奉天陷落後各軍ハ急速ノ前進ヲナシ、奉天鐵嶺等ニ支庫
 ヲ開設セラレ、爲メニ部隊ノ直接交附ハ鴨綠江軍遼陽守備軍ノ諸部隊トナリ、兵
 站線路ニ依ル困難ハ稍々減ゼシモ、前方支庫ヘノ追送繁多トナリ、鐵路ニ依リ

輸送スルモ是レ亦全軍ノ生命トシテ故障ヲ生ジ輸送中止ノ不運ニ遇ヒシ等本
 期間ノ補給ハ困難ナリシモ職員ノ業務ニ熱心ナルト熟達セシトニ依リ補給上
 差支ナカラシメタリ。

當支庫ニ於テ蹄釘ノ鑄取作業ヲ行ヒタル鑄釘ハ支庫開設以來各軍ヨリ返納セ
 シ蹄鐵箱中ノ蹄釘ニシテ返納蹄鐵箱ヲ開檢ノ結果發錆セシモノ約四千三百箱
 (一千二百五十本入)ニシテ甚ダシク發錆セシモノニアリテハ一罐内ノ蹄釘ハ全
 部錆着スルモノアリキ。

- (一) 蹄釘發錆ノ一般狀況 蹄釘ハ重キ蹄鐵箱中ニ共入シ有ル爲メ蹄鐵箱ノ
 取扱甚ダ困難ナル結果積卸運搬ノ際粗暴ノ取扱ヲ免レズ加之釘ノ尖端容
 罐ニ接着スルニ依リ反動ヲ受クル毎ニ容罐ヲ破リ爲メニ破損孔ヨリ雨水
 濕氣浸入シ發錆スルモノ、如シ
- (二) 保存法並ニ蹄釘ノ種類ニ依ル發錆程度 蹄釘保存法トシテ石灰或ハ栗
 売ヲ混入シアルモ一度容器ヲ釘尖ニテ破損セバ之レヨリ水氣浸入シテ發
 錆ス而シテ石灰ヲ混入シアルモノハ栗売ヲ混入シアルモノヨリモ發錆ノ
 度甚ダシク舶來白釘ハ和製黒釘ニ比シ發錆ノ度甚ダシ而シテ鑄取ヲナス

ニハ混合物ノ入アル鑄釘ヨリモ混合物ナキモノ、鑄釘ヲ容易ナリトス
(三) 鑄取ノ方法

本項ヲ述ブルニ當リ鑄取ニ要スル器具ヲ記サントス左ノ器具ハ戰地ニテ
自製セシモノナレバ完全ノ鑄取器械ニ非ラズシテ一時的ノモノトス
(一) 鐵鍋九枚 (二) 十能十枚 (三) 釘搔十本 (四) 武力罐底ニ無數ノ小
二個 (五) 木箱二個 (六) 水容樽一個
右器械使用ニ必要ノ材料、木炭五十貫目、石油一斗(但シ一日量)
作業人員二十二名

一日ノ作業高約二十五萬本トス

(四) 始メ蹄釘ヲ武力罐ニ入レ縦横ニ振盪シ其混合ヲ拂ヒ去リ火熱ヲ加ヘア
ル鐵鍋中ニ入レ約三分間攪拌シ後之レヲ木箱ニ移シ五分間位振盪シ次ニ
武力罐底ニ無數ノ孔アルニ入レ水ヲ注ギ浮鑄ヲ流失セシメ一ツハ燒釘ノ
軟トナリタルモノヲ水ニテ冷ス釘質ヲ堅クスルノ爲メナリ然レトモ多量
ニ水ヲ注グバ反テ赤色ヲ現ス故ニ燒釘ヲ水ニテ九十度乃至百度位ニ冷シ
若干時振り直ニ石油ヲ注ギ是レヲ振レバ石油ハ釘ノ全部ニ附着シ石油ハ
釘ノ熱ニテ乾燥ス是レニテ作業ヲ終ル以上ノ方法ハ輕キ表面ノ鑄ヲ除ク
ノミニシテ完全ノ鑄取方法ニ非ラザレバ從テ成績ニ付キテモ好結果ト云
ヒ難ク保存ノ點ニ付キテモ至テ短ク當座的ノモノトス然レドモ作業當時

ニ使用スレバ差支ヘナシ

第三期自明治三十八年四月二十七日

本期業務ハ分テ返納品整理、補給還送トスベシ。

一、返納品整理ノ狀況 本期ニ於テ整理セシ獸醫材料ハ總梱包數三百四十四梱
品種八十八種トス。整理ノ結果完全ナルモノニアリテハ其儘ニ各部隊へ補
給シ、破損器械ハ大連本倉庫へ還送セリ。而シテ返納品ノ缺損程度ニ付キテ
ハ別表ヲ附シ參考ニ供セントス。以上ノ外返納病馬温保毛布一千三百五十
六枚受入内不足二十枚破損ノ爲メ使用見込ナキモノ百十六枚洗濯ヲ行ヒ消
毒ヲ施セシモノ六百九十枚、單ニ消毒ヲ施セシモノ四百三十枚、腹帶ハ一千二
百二十八條ト送狀ニ對シ現品七十一條不足洗濯消毒修理セシモノ一千八十
七條使用見込ナキモノ九十條トス。

蹄鐵ハ各軍ヨリ返納雜トシテ受入レシモノヲ整理セシモノニシテ其整理高
尋常蹄鐵三萬二千五百六十裝、氷上蹄鐵螺旋式一萬九千九百四十裝、固定式一

萬九千三百裝鐵躰二十四萬九千八百四十個、蹄釘百十五萬六千四百五十本ト
 ス。而シテ尋常蹄鐵ハ二十五裝入、氷上蹄鐵螺旋式十五裝入、固定式二十裝入
 トシ、特號入或ハ入組ニナシ總テ無釘トス。右ノ整理ハ一日ノ作業高約四十
 箱ニシテ木工七名支那苦力十名兵八名ヲ使役セリ。

二、補給ノ狀況 本期ハ平和克復後ニテ材料ノ需用多カラザル爲メ補給ニ付テ
 特記スル事ナキモ各部隊ノ氷上蹄鐵ノ大部ヲ格納シアル爲メ改装期前ニ至
 リ前方支庫ヘ補給シ一時繁忙ナリキ。本期ニ於ケル補給部隊ハ奉天鐵嶺支
 庫、鴨綠江軍遠東兵站監部ノ諸部隊トス。

三、材料還送ノ狀況 材料還送ニ付テハ比較的材料ノ少ナキ爲メ困難ナク、只單
 線ノ鐵道ニテ貨車ノ配當意ノ如クナラザル爲メ時日ヲ長カラシメタルノミ
 ナリ。還送總梱包總九千六百二梱ニシテ、此内譯獸醫材料一千一百七十七梱
 氷上蹄鐵螺旋式一千七百四十八梱、固定式一千百六十梱、尋常蹄鐵五千四百四
 十二梱、其他雜七十五梱トス。

四、本期間職員及其出入 陸軍二等獸醫中島龍夫、陸軍騎兵一等蹄鐵工長荻原
 定次郎、庫手戸田信吉。

當支庫開設ヨリ復員ニ至ル獸醫材料並ニ蹄鐵ノ受拂左表ノ如シ。

自明治三十七年九月二十四日 至同三十九年四月二十一日 獸醫材料並蹄鐵受拂表

品目	受		入				出		殘
	大連	奉天	奉天	第一軍	第二軍	第三軍	第四軍	其他	
溶製石炭酸	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
沃度加留	100	100	100	100	100	100	100	100	100
沃度仿	100	100	100	100	100	100	100	100	100
沃度丁	100	100	100	100	100	100	100	100	100
華攝林	100	100	100	100	100	100	100	100	100
胃散	100	100	100	100	100	100	100	100	100
鹽酸古加乙	100	100	100	100	100	100	100	100	100

脱脂綿花	卷軸帶	消毒綿花	消毒麻糸	消毒繻糸	消毒紗	アルコール燈	チエデル油使用器	硬護注射器	解剖刀	檢口器	蒸餾器	ヘーアン氏動脈鑷子	解剖器械	釘頭外科刀	硬護注射器	細小探子	彎刀
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

削鼠齒蹄	通齒常鏟	齒常鏟	齒常鏟	銳齒	兩管葉	套管	刺絡	S形探子	鯨製探子	皮下注射器	最高底寒暖計	舊式獸醫極	檢眼鏡	漏斗(臺共)	帽針	打診器
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

備	考	第一軍	第二軍	第三軍
一、獸醫材料雜受ハ現品検査ノ結果過剩ニ付受入セシモノ 一、拂出ノ關東總督府項ハ遼東守備軍遼東兵站監部へ補給セシモノヲ含ム 一、其他拂ハ第十六師團第十五師團其他小部隊へ補給セシモノ 一、雜拂ハ現品不足及缺損セシモノ 一、蹄鐵材料ノ雜受ハ各部隊ヨリ返納セシ内ニテ部隊不明ノ爲メ雜受トナシ整理セシモノ 一、雜拂ハ現在検査ノ結果過剩或ハ整理ヲ要スル爲メ滿洲軍總豫備用へ拂出セシモノ 一、其他拂ハ補給ノ都合上他部隊へ拂出セシモノ	超形	超形	超形	
	個	個	個	
	117,800	117,800	117,800	
	9,600	117,800	117,800	

獸醫材料整理表

品目	稱數	高受入	完全使用 ノユルモ	欠損	計
稀鹽酸	磅	20	20		20
偲里設林	磅	25	25		25
醋鉛末	磅	55	55		55
散布劑	磅	50	50		50
的列並底油	磅	50	50		50
甘汞	磅	10	10		10
昇汞	磅	25	25		25
撒里知爾酸	磅	20	20		20
硫酸亞篤魯必涅	瓦	35	35		35
硫酸亞鉛	磅	8	8		8
安知歌貌林	磅	100	100		100
格魯兒那篤留謨	磅	25	25		25
古魯胃謨	磅	50	50		50
重炭酸那篤留謨	磅	10	10		10
芥子末	磅	11	11		11
芥子油	磅	11	11		11
阿列布油	磅	30	30		30
樟腦精	磅	1	1		1
依的兒膏	磅	10	10		10
伴創膏	磅	11	11		11
硼酸	磅	22	22		22
炭疽液第一苗	頭	8	8		8
炭疽液第二苗	頭	22	22		22
防ノゾール	磅	110	110		110
芫青膏	磅	8	8		8
安母尼亞水	磅	9	9		9
抱水格魯拉兒	磅	1	1		1
驅虫粉	磅	5	5		5
甲獸醫材料箱	個	4	4		4
乙獸醫材料箱	個	5	5		5
丙獸醫材料箱	個	4	4		4
丁獸醫材料箱	個	7	7		7
吐酒石	磅	17	17		17
酒酒精	磅	25	25		25
溶製硝酸銀末	磅	2	2		2
明礬末	磅	1	1		1

品目	稱數	高受入	完全使用 ノユルモ	欠損	計
沃度加留謨	磅	20	20		20
沃度仿謨	磅	20	20		20
沃度丁幾	磅	1	1		1
溶製石炭酸	磅	20	20		20
華攝林	磅	20	20		20
胃散	磅	20	20		20
鹽酸莫兒比涅	瓦	15	15		15
鹽酸必魯加兒必涅	瓦	10	10		10

シモノナク從テ補充請求ニ接セザリシハ業務上好都合ナリシト云ハザル可カラズ。四月十三日遼陽支庫出張所ヲ蘇家屯ニ開設セシ以來各部隊ヨリノ補充請求ニ應ズルコトヲ得此ニ當支庫業務ノ開設ヲ見ルニ至レリ。然トモ初任獸醫ハ往々出張シ爾來主任獸醫ノ更迭頻繁ナリシヲ以テ部附工長終始熱心ニ業務ニ從ヒコレヲ圓滿ニ進捗セシメシハ満足ヲ表スル所タリ。

平和克復後ハ小部隊ノ補充ニ止リシモ鴨軍並ニ第三軍ノ一部隊奉天附近ニ駐屯セシヲ以テ之ガ補充ヲ繼續セリ。明治三十八年十一月以後ハ各軍續々凱旋ノ途ニ就キ爲メニ返納材料頻繁ニシテ日々之ガ整理作業ニ從事シ、現在尋常蹄鐵百梱固定式及螺旋式氷上蹄鐵各百梱其獸醫材料ノ一部ヲ倉庫ニ格納保管シ、他ハ悉ク大連本庫ニ還送シ、此ニ材料整理ヲ了セリ。

二 補充部隊及補充材料

補充部隊ハ第二軍第三軍第四軍及鴨軍兵站獸醫部、小部隊トシテ滿洲軍總司令部附近駐屯諸部隊トス。明治三十八年五月以後ハ各軍兵站獸醫部(鴨軍ハ除ク)

ハ鐵嶺方面ニ前進シ、各軍ノ請求ニ係ル諸材料並ニ蹄鐵ハ鐵嶺支庫ニ鐵路輸送ヲ行ヒ之ガ補充ヲ計レリ。

補充材料ハ別表收ムル所ノ如シト雖各部隊ヨリ表外獸醫器具ノ請求ニ接セシモノハ磨革、革砥、S狀探子、彎刀、細小探子、膏藥篋、黃銅製木爹兒入罐、柳葉刀、兩及片及、銳匙、套管針、等ニシテ需用ノ多キモノハ外科刀直、外科剪刀直、鑷子、及櫛子缺トス。

補充藥品亦別表ノ如シト雖モ需用夥カリシハ石炭酸、胃散、散布劑、硫酸那篤留、樟腦精、的列並底油、華攝林、沃度丁幾、沃度仿謨、酒精、木爹兒ナリキ。

三 鹵獲材料

當支庫ニ於テ收集整理セシ鹵獲材料ハ露國式器械製氷上蹄鐵ニシテ獸醫材料ハ一モ收集セシモノナシ。

鹵獲蹄鐵ハ奉天停車場約千米突ニアリシ倉庫内ニテ發見セシモノナリ。其員數大約左ノ如シ。

水上蹄鐵三、一一〇裝蹄釘七八五、〇〇〇本、鐵臍九六、一〇〇〇個、五月五日第二軍憲兵部ヨリ水上蹄鐵約四〇〇裝、奉天城內整理委員ヨリ水上蹄鐵約二、〇〇〇裝、第二軍砲兵部ヨリ水上蹄鐵約四、五〇〇裝、蹄釘一三〇、〇〇〇本、鐵臍一、二〇〇個ヲ送附シ來ル。以上ノ蹄鐵ハ梱包不全ノモノトス。

明治三十八年九月十日鹵獲蹄整理ノ結果左ノ員數ヲ得タリ。

鹵獲水上蹄鐵整理員數表

品目	員數	摘	要
螺旋式水上蹄鐵	七、五五九	鐵臍ヲ挿入セザルモノ	
固定式水上蹄鐵	七、五五九	人造及器械裝ノ二種アリ	
蹄釘	六七一、四〇〇	器械製	
鐵臍	一二三、九〇〇	円形、方形、方錐形、方錐形ノ鈍頭ノモノ四種	

備考

一 螺旋式水上蹄鐵ハ露國製青塗内面鐵板張リ錠前附ノ木製箱ニ格納セルモノ、一、二、三、五裝箱ニ大小ノ別アリ大ハ二十裝小ハ十五裝ヲ收ム食料品ノ

空箱ヲ利用シ入組不定ニ格納セルモノ、一、二〇四裝麻製袋入二十五袋一捆トナシタルモノ、二、一五〇裝及二十袋入一四〇裝十裝宛麻繩ニテ梱包シタルモノ、二、八三〇裝トス

二 固定式水上蹄鐵ハ一寸板製帶鐵附(露國製)ノ箱ニ格納セルモノ、二、二七五裝食料品ノ空箱ヲ利用シテ格納シ入組不定ノモノ、一、〇九二裝當支庫製箱入(二十裝入)、八九七裝麻製袋入一、三七五裝麻繩ニテ梱包シタルモノ、九二〇裝ナリ

三 蹄釘ハ露國製箱詰ノモノ、三、五、六、四〇〇(一箱四、四〇〇本入)當支庫製箱入三、一五、〇〇〇(一箱五、〇〇〇本入)トス

四 鐵臍ハ方錐形鈍頭ノモノ、二、四〇〇(一箱方形ノモノ九、〇〇〇個(六箱)円形ノモノ一八、〇〇〇個(一二箱)同三、二、〇〇〇個(麻製袋入一六方錐形ノモノ四一、五〇〇個(六箱)四種類混合ノモノ、二、一〇〇個(一七袋)トス

鹵獲蹄鐵ハ爾後補給準備品トシテ各號ニ區分シ螺旋式六、二、三、五裝固定式三、一、五裝ヲ當倉庫ニ格納保管セシト雖モ遂ニ補充ノ必要ナク三月十三日悉皆大連本倉庫ニ還送セリ唯戰利蹄釘ハ特大蹄鐵用トシテ四、四〇〇本鐵嶺支庫ニ補給セリ。

鹵獲水上蹄鐵號數別表

號式分	螺式		固定式		小計	
	組一箱數入	捆數裝數	組一箱數入	捆數裝數	捆數	裝數
壹號	二〇	二〇〇	二〇	二二	三三	四四〇
貳號	一〇一	二〇〇	二〇	二九	五八〇	二六〇〇
參號	七〇	一、四四〇	四二	八四〇	一一四	二、一八〇
肆號	一一三	一、六九五	六〇	九〇〇	一七三	二、五九五
伍號	一五	一、〇八〇	一五	六〇〇	一〇九	一、六三五
計	三五八	六、二三五	一九〇	三、三一五	五四八	九、五五〇

備考 本蹄鐵箱入ハ總テ垂釘垂鐵臍トス

四 返納材料

奉天會戰後日ナラズシテ蹄鐵ノ返納頻々タリ。爾來致々トシテ之ガ整理作業ニ罷メ補給材料トシテ倉庫ニ格納シ其過半ハ補充ニ充ツルコトヲ得タリ。平和克復後ハ返納獸醫材料並ニ蹄鐵多ク其大部ハ水上蹄鐵ニシテ當倉庫ニ格納ス可キ必要ヲ認メザリシモノハ大連本庫ニ還送セリ。返納シ來ル獸醫材料ノ

大部ハ當支庫ニ於テ充分ナル整理ヲナサズ本倉庫ニ還送ヲ了リタルモ返納蹄鐵ハ各部隊トモ其取扱ヒ方區々ニシテ之レカ整理ニハ非常ナル手數ト時日ヲ要シタリ。例ヘハ一團ノ總數ノミヲ記シ或ハ螺旋式固定式ノ別ヲナサズ加之剝鐵ノ混在ヲ發見シ或ハ裝數ヲ度外ニ置キ唯捆數ノミヲ記入シテ返納シ來ルモノヲ認メ梱包不全蓋ヅツク所々破損セル箱ニ納メ甚シキニ至リテハ二個ヲ以テ一裝ト裝算シ其整理上複雑ナル舉ケテ數フ可カラズ以上ノ返納蹄鐵ハ根本的ニ整理ヲ實施シ補給準備品トシテ格納スルコトヲ得タリ將來蹄鐵返納ニハ各部隊ニ一定ノ返納取扱方法ヲ講セラレシコトヲ望ム返納材料員數別表ノ如シ

返納材料員數表

品目	部隊號		員數
	第三軍	其他	
獸醫材料	五三團	一二個	四團
計			一七八團

品名	數量	大連	遼陽	鐵嶺	雜計	總計	軍部	第二軍	第三軍	第四軍	鴨軍	其他	計	殘
尋常蹄鐵	九〇八一號					九〇三三							二一三三	
螺旋式水上蹄鐵	一、五三三號					二、九〇五							四、四八七	
固定式水上蹄鐵	一、七八三號					六六							二、五四九	
鐵蹄	五、四二〇個					八、九八〇							一四、四九二	
螺絲	三八四、二〇〇本					五、四三〇〇							四、五八七	
螺絲	一、〇六一個					二、〇六一							三、四六一	

自明治三十八年三月至同三十九年四月 獸醫材料並蹄鐵受拂表

品名	數量	受入區分				拂出區分				計	殘		
		大連	遼陽	鐵嶺	雜計	總計	軍部	第二軍	第三軍			第四軍	
溶解石炭酸	三、五〇〇				三、五〇〇								
沃度加留	一、五〇〇				一、五〇〇								
沃度仿	五、〇〇〇				五、〇〇〇								
沃度丁	一、〇〇〇				一、〇〇〇								
華攝林	三、〇〇〇				三、〇〇〇								

品名	數量	大連	遼陽	鐵嶺	雜計	總計	軍部	第二軍	第三軍	第四軍	鴨軍	其他	計	殘
胃散	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
鹽酸古加乙	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
鹽酸必魯加兒	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
鹽酸莫兒比	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
稀鹽酸	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
偏里設林	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
醋里鉛末	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
散布底劑	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
的列並油	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
甘汞	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
昇汞	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
撒里知爾	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
撒里知爾那篤	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
亞鉛華軟膏	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
亞鉛華軟膏	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
硫酸亞篤魯必	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
硫酸比蘇斯知	一、〇〇〇				一、〇〇〇									
硫酸那篤留	一、〇〇〇				一、〇〇〇									

般ノ設備ヲ經營セザルベカラズ。爲メニ事務開始ト同時ニ若干名ノ助手ヲ請求シ五月十二日補助輸卒中野清作、平崎丈藏ノ兩名配屬セラル。又同月十四日奉天支庫附遊佐二等獸醫鐵嶺支庫兼勤トシテ一時出張ニ付協議ノ上諸設ノ設備ニ着手セリ。當時鐵嶺停車場附近ニハ人馬宿營ノ家屋ニ乏シク多クハ露營ノ實況ナリシヲ以テ材料格納用建物ノ如キ到底望ム能ハズ。止ムナク全部屋外堆積ノ計畫ヲ立テタリ。即チ現在ノ舊滿倉線附近ニ數十ヶ所ノ一小區劃ヲ限リ四圍ニ排水溝ヲ繞ラシテハ材木欠乏ノタメ薪木ヲ利用シ當時積々返納シ來ル氷上蹄鐵ノ受入並後方ヨリ追送ノ補給材料ハ悉ク茲ニ收容シ、嚴重ナル雨覆ヲナシテ保管セリ。然レトモ雨季ニ入り附近一帶ノ地泥濘甚敷一望苗代若クハ沼池ノ觀アリ。爲メニ防濕上ノ苦心尠ナカラザリキ。

以上設備ノ傍ラ漸次材料ノ補給ヲ開始セルヲ以テ、助手ノ増員ヲ申請シ、五月二十七日庫手武藤平吉、山本德藏專屬セラレタルモ、武藤庫手ハ間モナク遼陽支庫轉勤ヲ命セラレ。平崎輸卒ハ病氣歸隊ニ付更ニ増員ヲ申出テ、庫手朝井龜太郎

(六月二日專屬)庫手田部井弼吉(六月八日專屬)八月三日脚氣症ニ罹リ入院補助輸卒東崎和三郎(六月三十日配屬)三十九年二月二十五日原隊凱旋準備ノ爲メ歸隊セシム)ノ三名配屬セラル。之レヨリ先キ兼勤ノ遊佐獸醫五月下旬ヨリ上旬ニ至リ命ニ依リ陸軍省特派ノ今泉一等獸醫正ニ隨ヒテ各軍ヲ巡視シ出征全師團ニ於ケル材料補給狀況ノ視察併セテ諸種ノ打合ヲナシ、相互意志疎通ノ結果、當支庫ノ材料補給上至大ノ裨益ヲ得タルノミナラズ、毫末ノ支障ヲ見サリシハ全ク同獸醫派遣ノ効與リテ力アリト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ。而シテ遊佐獸醫出張中六月二十四日鐵嶺支庫附キトシテ陸軍二等獸醫金森榮吉着任(第九師團獸醫部附ヨリ轉入)大ニ業務ノ改善ヲ企圖シ、當時支庫ニ於テハ各軍生牛補給事業ヲ實施セルヲ以テ生牛ノ検査及病牛ノ處分等ヲモ兼任セシメラル七月月上旬遊佐獸醫歸着ト共ニ鐵嶺支庫專任トナリ金森獸醫奉天支庫附トシテ七月十日赴任セリ。又七月八日大連倉庫ヨリ陸軍砲兵二等蹄鐵工長高野武次郎着任(三十九年三月十一日大連倉庫復歸セルヲ以テ假リニ下士以下ノ分擔業務

ヲ左ノ如ク定メ大ニ業務ヲ擴張セリ

庶務

鈴木一等工長

山本庫手

獸醫材料受拂

鈴木工長兼務

中野輸卒

蹄鐵受拂

高野二等工長

朝井、田部、井庫手、東崎輸卒

六月初旬新滿倉線ノ完成ト共ニ材料集積場全部ヲ其附近ニ移轉シ尙ホ且ツ屋外堆積ヲ爲セリ。然ルニ當時降雨殆ト連日ナルヲ以テ泥濘全ク脚ヲ没シ諸般ノ作業最モ困難ヲ極ム、殊ニ材料補給上屋外ニ於ケル小分ケ並ニ整頓ノ如キハ殆ト豫定ノ如ク實行シ能ハザル苦境ニ陥リ、加之追送材料ハ續々到着スルヲ以テ集積場ハ狹隘ヲ告クルニ至レリ。茲ニ於テ約百坪ノ假倉庫ヲ急造シテ漸ク獸醫材料ノ全部ヲ格納シタルモ、蹄鐵ハ依然防濕ヲ嚴ニシ、集積場ニ留置シタリ、カクテ第一期ノ作業略ボ整頓スルニ至レリ。

本期間材料倉庫巡視ノ關係上官ハ左ノ如シ。

五月二十三日

陸軍獸醫學校長

今泉一等獸醫正

六月九日

第一師團獸醫部長

内村三等獸醫正

七月七日

本倉庫主任

萩原三等獸醫正

七月十一日

第一軍兵站獸醫部長

太田三等獸醫正

七月十四日

滿洲軍倉庫長

日匹二等主計正

七月二十四日

陸軍省軍務局長

宇佐川少將閣下

七月三十日

第四軍兵站獸醫部長

藤崎三等獸醫正

第二期

自三十八年八月
至同年十月

本期ハ最モ多數ノ材料ヲ補給シ、殊ニ十月初旬ヨリ十一月ニ至リ氷上蹄鐵ノ補充ヲ開始シ其數十四萬裝ニ達セリ。獸醫材料補給ノ方法ハ第一軍及第四軍兵站監部ハ鐵嶺城外ニ駐屯セシヲ以テ受授極メテ容易ナリ。第二軍兵站監部ニ對シテハ慶運堡迄陸送セシコトアリシモ其後宰領ヲ附シテ開原迄汽車輸送同地停車場ニ於テ引渡シ、豫想外ノ好結果ヲ得タリ。又第三軍兵站監部ハ法庫門ニ宿營セシヲ以テ全ク兵站線路托送ノ外策ナク毎回必ラズ宰領ヲ特派シ可及

的受授ノ速達且ツ確實ヲ企圖シタルモ、概シテ道路粗惡往々支那車輛不通ノ場合アリシタメ、一面ニ於テ馬蜂溝ヨリ水路小塔子ニ至リ、更ニ同地ヨリ陸送ノ方法ヲ採ル等少カラズ苦慮シタリ。此ノ如キ實況ナリシヲ以テ多少ノ遲着ハ元ヨリ免レサルモ殆ト豫定通り實行シ得タルハ望外ノ良果ナリキ。又材料中追送品外ノ煨製石灰ヲ請求スルモノアリシガ本品ハ支庫衛生材料係ニ於テ盛ニ製作セラレシヲ以テ隨時保管轉換ヲ受ケテ各軍ノ請求ニ應ジタリ。

蹄鐵ノ補充ハ概ネ前者ニ異ナラスト雖支庫近距離ノ師團ハ直接受領者ヲ派遣セラレタルヲ以テ馬廠若クハ豫備馬廠其他ノ部隊ニ直接補充セルモノ多シ。蹄鐵補充上特ニ困難ヲ感ジタルハ各師團希望入組或ハ號別ノ請求ニアリ。之レ蓋シ出征後隊馬ノ異動ヲ生ジタルト一般ニ蹄形擴大ノ結果各師團宛規定ノ入組ニテハ實用上不便少ナカラス。殊ニ前方部隊ノ如キハ不合蹄鐵ノ補缺トシテ毎回若干ノ豫備ヲ見込ミ請求セザルベカラザルノ不利アレバナリ。故ニ當支庫ハ能フダケ之等ノ希望ヲ充タスタメニ取扱及記帳ノ煩雜ハ毫モ願慮セ

ズ各師團宛若クハ總豫備蹄鐵ヲ斟酌流用シタルモ特號入即チ各號別希望者(全師團ノ約半數ハ特號入ヲ希望ス)ニ向テハ元ヨリ多數ノ準備ナキヲ以テ悉ク之ニ應ズル能ハザリシハ遺憾ナリキ。之ガ補充策トシテハ箱破損ノモノ或ハ返納蹄鐵ノ検査ヲ兼ネ開函ノ上臨時特號入組立テ方針ヲ採リ一面内地ニ向テ補充請求ヲナセリ。恰モ良シ八月下旬完全ナル大倉庫ノ落成ト共ニ材料ノ全部ヲ第九號倉庫ニ格納シ、從來ノ假倉庫ハ之ヲ蹄鐵整理作業場ニ宛テ、常使役トシテ一定ノ輸卒二十餘名配屬シ、專ラ返納尋常蹄鐵ノ整理ヲ勵行セリ、而シテ當時受入ノ返納水上蹄鐵ハ整理ノ餘裕ナキヲ以テ全部遼陽支庫へ逆送シ、同時ニ返納温保毛布千餘枚モ亦洗濯ノ必要上共ニ遼陽支庫へ返送セリ。此間天候不良ナルト一般ノ作業繁劇ナリシタメ健康ヲ害スルモノ多ク既ニ熟練ナル田部井山本兩庫手ハ八月初旬孰レモ脚氣症ニテ入院シ、業務實施上不少支障ヲ來セリ。故ニ増員ヲ申請セシガ八月四日庫手常泉勝重(同人ハ三十九年三月十五日脚氣症ニテ入院)八月六日補助輸卒奥村千藏(同人ハ三十九年二月二十五日原隊凱旋準備

ノタメ歸隊セシム八月八日傭員小池良之助奉天支庫ヨリ轉入八月九日陸軍輜重兵三蹄鐵工長井上喜策同人ハ十月九日大連倉庫へ復歸大連倉庫ヨリ配屬セラレシニヨリ直ニ下士以下ノ分擔ヲ變更シ更ニ業務ノ擴張ヲ圖レリ。

庶務 鈴木一等工長 奥村輸卒

獸醫材料受拂 鈴木工長兼務 小池傭員 中野輸卒

蹄鐵受拂 高野二等工長 小池傭員兼務 朝井庫手

蹄鐵整理作業 井上三等工長 常泉庫手 東崎輸卒

八月初旬新民府ニ於テ買入前送ノ生牛ニ鷲口瘡發生シ病勢猖獗ナリシヲ以テ直ニ近傍部隊及大連倉庫本部並ニ新民府ニ急報スルト同時ニ重症牛ハ撲殺燒棄、輕症牛收容ノ目的ニテ鐵嶺山麓ニ病牛隔離場並放牧場ヲ新設シ、一時百餘頭ヲ入厩セシムルニ至レリ。故ニ不取敢鈴木蹄鐵工長ヲ治療助手トシ、雇員荒木龜吉ヲ專屬セシメテ專ラ病牛ノ攝養ニ注意シ重症ニ近キモノハ治療ヲ施シ、一面買入及輸送ニ注意セシメタルモ容易ニ撲滅ニ至ラズ。業務一層ノ多忙ヲ極

メタル折柄八月二十三日萩原獸醫正巡視約三週間滞在セラレ、其間自ラ各方面ニ出張シテ親シク購買地及途中輸送ノ狀況ヲ視察セラレ從來ノ輸送路ヲ變更シテ馬蜂溝ニ集合セシムルノ計畫ヲ立テ、新ニ生牛給養所ヲ數箇所ニ設クル等全然購買ヲ中止セズシテ可成生牛補給ノ持續ヲ企畫セシモ容易ニ全滅セザルヲ以テ斷然本事業ヲ一時中止スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ。以上ノ出來事ノタメ八月二十九日陸軍騎兵一等蹄鐵工長本多勘次郎一時當支庫ニ配屬シ專ラ病牛處分ヲ努メ又陸軍二等獸醫江口菅太郎支庫附トシテ九月一日着任シタルモ一時中止ノ結果本多工長ハ九月十二日大連倉庫ニ復歸セシメタリ。

九月十六日午後休戰ノ命下リシモ材料ノ補給ハ依然トシテ繼續シ殊ニ九月下旬ヨリ着々氷上蹄鐵ノ交付ヲ開始セルヲ以テ一層ノ多忙ヲ極ム。而シテ本年度氷上蹄鐵ノ請求ハ固定式甚少ナク螺旋式其三倍以上ニ達セリ。之レ固定式ハ昨冬使用ノ結果概シテ防滑力少ナク且ツ前臍ノ磨滅比較的迅速ノタメ頻々改装ノ嫌アルノミナラズ舉踵繁輝等ノ惡結果ヲ招來スルモノ亦尠カラズ一般

ニ惡評ナリシ反響ナルベシト信ズ。

十月九日 江口二等獸醫奉天支庫ニ轉シ同日井上三等工長大連倉庫復歸ニ付後任トシテ同月十一日陸軍砲兵一等蹄鐵工長飯田右衛門(同人ハ營口支庫ヨリ轉入)又同月十七日陸軍三等獸醫守田省三奉天支庫ヨリ着任外ニ補助輸卒藤井武夫一名増員(九月十日專屬三十九年二月二十五日原隊凱旋準備ニ付歸隊)十月十六日平和克復ト共ニ漸次諸材料ノ返納アルベキヲ豫期シ更ニ左ノ如ク業務ノ分擔ヲ定メタリ。

庶務 鈴木一等工長 奥村輸卒

獸醫材料受拂 鈴木工長兼務 小池傭員 中野輸卒

蹄鐵受拂 飯田一等工長 小池朝井傭員 東崎輸卒

返納材料整理 高野二等工長 常泉庫手 藤井輸卒

守田三等獸醫ハ生牛及屠獸ノ検査ヲ兼ネ專ラ返納品ノ整理主任ヲ分擔セシメタルモ、同月二十一日突然辛碓泊場司令部附ノ電命ニ接シテ赴任セルタメ、返納

品ノ整理ニ就テハ少カラザル支障ヲ生ジ、豫期ノ如キ整理業務ヲ完ウスルハ頗ル困難ナルニ至レリ。

當地ハ十月下旬ヨリ漸次氣候寒冷ニ赴クヲ以テ凍結見込材料約六百梱ハ衛生材料ト共ニ煉瓦造ノ家屋ニ特別格納採温ノ方法ヲ採リ、凍結豫防ノ結果僅カニ蒸餾水ノ凍結セルニ過ギズ又本季間第四軍兵站監部ノ請求ニ依リ、營口支庫購買ノ支那蹄鐵八千裝ヲ補給シ、又第一軍戰利野砲大隊ヨリ戰利蹄鐵五十六箱返納アリタルモ本品ハ直ニ大連ニ還送セリ。

本期間材料倉庫巡視ノ關係上官ハ左ノ如シ。

八月二十三日 本倉庫主任 萩原三等獸醫正

九月二十四日 遼東兵站獸醫部長 柳澤二等獸醫正

十月二十日 第十五師團獸醫部長 村田三等獸醫正

第三期自三十九年十一月

十一月三日ヨリ滿洲軍ハ凱旋ヲ開始セルヲ以テ本期間材料ノ補給ハ比較的少

ナク専ラ各部隊返納材料ノ整理(獸醫材料ノ返納約二千梱並不用材料還送作業トス。而シテ各軍ノ凱旋ニ際シ軍馬檢疫「マレイヌ」注射ニ要スル檢温器及皮下注射器ノ請求頗ル多數ニ上リ、皮下注射器ハ直ニ在庫品ニテ悉ク補充スルヲ得タルモ檢温器ハ破損多キタメ隨テ請求モ亦多ク追送遲着等ノ關係ヨリ一時ニ要求ノ全部ヲ充タス能ハザリシハ聊カ遺憾トスル所ナリ。然レドモ各軍檢疫實施ノ緩急ニ應ジ彼此流用ノ策ヲ講ジ、幸ニ甚シキ故障ナキヲ得タルハ僥倖ナリキ。然ルニ兵站監部歸還後ハ各部隊ヨリ凡テノ材料直接請求ヲ受クルノ止ムヲ得ザルニ至リ殊ニ少數宛ノ檢温器ヲ請求スルモノ多ク時トシテ注射試驗ニ差支ヲ生ズル部隊ナキニシモアラズ。故ニ止ムナク補給準備品ノ獸醫極及甲獸醫行李内容品ヲ取出シ救急ノ補充ヲ行フニ至レリ。之ニ依ルモ檢温器補充ノ困難ナリシ事ハ想像ニ難カラザルベシ。又注射用「マレイヌ」ハ末期ニ至リ凱旋部隊ヨリ過剰品ノ返納及追送品ヲ合シテ約一萬瓦受入レ直ニ檢疫未済ノ各部隊ニ小分配ヲ爲セリ。

返納品整理ノ方法ハ獸醫材料ハ大體整理ニ止メ直ニ大連倉庫ニ還送セリ。即チ受ケ入ル、ヤ直ニ特ニ設備セル作業場ニ於テ悉ク開函シテ品目員數ヲ検査スルト同時ニ新品古品ヲ區別シ、新品中在庫品不足スルモノハ之ヲ補給準備品ニ繰リ入レ他ハ普通ノ在庫品ト出納ヲ異ニシ還送證ト共ニ大連へ還送セリ。然ルニ返納材料ハ甚區々ニシテ兵站獸醫部若クハ師團獸醫部ニテ取纏メ交付セラレタルモノハ少ナク、多クハ各部隊小數宛凱旋途次返納セルモノニシテ一梱中數十種ノ材料混在スルノミナラズ内容品ノ過不足或ハ甚シキ破損品等アリ之レガ大體整理ニ於テモ尙且ツ少ナカラザル困難ヲ見タリ。殊ニ整理助手タル蹄鐵工長一名ノ他ハ全ク藥名ヲモ解セザル輸卒等ニシテ一時ニ多數ノ整理ハ到底望ム能ハズ。教育ノ傍着々之ヲ實行スルハ頗ル至難ノ事業ナリキ。蹄鐵ハ從來ノ整理作業場ニ於テ各號入レノ大箱ヲ備付ケ各號ノ標本ヲ揭示シ開函検査ト共ニ助手ヲシテ各號別ニ整理セシメ最後ニ蹄鐵工長自ラ規定ノ箱入ヲ調製毎旬其整理高ヲ検査シ一括シテ悉ク補給準備品ニ繰入レタリ。而シ

テ可成此種ノ蹄鐵ヲ直ニ補充使用セシムルノ方針ヲ採リ既ニ其多數ハ補充スルニ至レリ。蓋シ過剩蹄鐵内地還送ニ方リ可成追送完全ノモノヲ其儘逆送セバ取扱及保存上至極便利ナルベキヲ願慮シタレバナリ。又返納蹄鐵整理ノ結果若干ノ古蹄鐵(剝鐵)ヲ發見セルノミナラズ、既ニ各部隊ヨリ過剩蹄鐵ト共ニ多數ノ古蹄鐵(受入總數約千二百箱)返納シ來リ中ニハ往々蹄鐵工具或ハ轆鐵礎ノ如キ、甚シキニ至リテハ小銃彈藥莢戰利銅鍋等ヲ混在スルモノアリ。之等ハ悉ク検査ノ上全ク使用ニ堪ヘザル古蹄鐵其他ノ器具器械即チ兵器ハ之レヲ野戰兵器本廠鐵嶺出張所ヘ交附セリ。而シテ以上検査ノ結果使用ニ差支ナキ蹄鐵及蹄釘ノ發見セルモノ少カラズ一括シテ同ジク補給準備品ニ繰入レタリ。生牛補給業務ハ鷺口瘡流行ノタメ一時中止セラレタルモ該疫全滅ト共ニ再ビ新民府ニ於テ購買ヲ開始シ、前記計畫ニ基キ馬蜂溝飼牛場ヲ利用セルニ、十一月初旬俄然牛疫發生シテ續々斃死ストノ報ニ接シ直ニ病牛ハ全部撲殺、健牛ハ隔離視察ヲ嚴行シ、一面近傍部隊ニ通報シ、飼牛場附近ハ大消毒ヲ行ヒ一時購買ヲ

中止シタルニ、幸ニ病勢猖獗ニ至ラズ僅カ數頭ノ缺損ニ止マリ防疫シ得タルハ不幸中ノ慶事ナリキ。三十九年二月三日第十四師團司令部ハ鐵嶺移轉ニ付早速獸醫部長ト内議ノ上同師團今後約一ケ年分所要見込材料ノ外全部大連へ還送ノ計畫ヲ立テ全力ヲ舉ケテ本作業ニ從事シ二月盡日迄ニハ殆ト全部終了スルニ至レリ。而シテ三月初旬支庫附各輸卒隊凱旋ニ就テハ專屬各輸卒並ニ返納材料整理助手タル常使役ハ全部二月下旬迄ニ復隊セシメザルベカラズ。且ツ三月上旬高野二等工長大連倉庫へ轉勤、續テ常泉庫手病氣入院スル等増々人員減少セシガ一般作業ノ困難ニ陥ラザル以前ニ既ニ大部ノ還送ヲ結了シ延テ事務整理モ比較的早く完結シタルハ小官ノ大ニ満足スル所ナリ。十二月下旬大連倉庫ヨリ表外品試験用トシテ左ノ二品追送セラレ直ニ分配シタルモ間モナク各軍ハ凱旋セルヲ以テ遂ニ其成績ヲ聽知シ得ザリシハ遺憾ナリ。

品	目	稱呼	第二軍	第三軍	第四軍	鐵嶺	馬廠	病	計
---	---	----	-----	-----	-----	----	----	---	---

鹽必魯注射溶液	管				
岡田蹄軟膏	罐	二	二	一	一
					七

本期間ニ於テ營口支庫ヨリ支那蹄釘五萬本内三萬本ハ氷釘受入レ第四軍兵站監部へ補給セリ。然ルニ同監部凱旋ニ際シ過剩支那蹄鐵九千七十裝ヲ返納シタルヲ以テ内六千裝ハ殘留師團引當トシテ保管シ他ハ大連へ還送セリ。本期間支庫來訪ノ關係上官左ノ如シ。

十一月二十三日第二軍兵站獸醫部長濱口三等獸正 同日第十一師團獸醫部長里瀨二等獸醫正

十一月二十五日陸軍獸醫學校長今泉一等獸醫正(同官ハ馬蜂溝飼牛場ヲモ巡視セラレ)

同日關東總督府獸醫部長柳澤二等獸醫正 同日第三軍兵站獸醫部長厚本二等獸醫正

同日鴨軍兵站獸醫部長上田二等獸醫正 同日第八師團獸醫部長篠崎二等獸醫正

十二月九日第二師團獸醫部長武藤二等獸醫正 十二月二十八日第七師團獸醫部長田澤三等獸醫正

二月九日第十四師團獸醫部長今井三等獸醫正 三月二十一日日本倉庫主任萩原二等獸醫正

以上業務ノ大要並ニ人員ノ異動等ハ大約記述シタリ。更ニ約言セバ獸醫材料並ニ蹄鐵補給業務ハ其數ニ於テハ他ノ材料ニ比シ少額タルヲ免レズト雖品種甚ダ多ク、殊ニ馬藥ノ如キ少クモ素養アル蹄鐵工長以上ナラデハ取扱至難ノ業務ナルニモ拘ハラス少數ナル人員ニテ大過ナク之ヲ保管シ、大體ニ於テ各軍ノ補給豫想外ノ良果ヲ得タルハ畢竟下士以下ノ努力ニ負フ所少カラズ。不肖一部主任者ノ満足ニ堪ヘサル所ナリ。希クハ今後此種ノ補給業務ヲ實施スルニ方リ更ニ獸醫及經驗アル蹄鐵工長ヲ増員スルヲ得ハ一層善美ノ良成績ヲ收得スルコト容易ノ業タルベシ。左ニ當係保管ノ帳諸簿ヲ列記シ且ツ別紙補給並ニ返納材料受拂一覽表ヲ添へ本報告ノ不足ヲ補ハントス。

備考	細小探子	一 獸材料ノ品種總計二百二十種ノ内規定品百種規定外百二十種トス 但シ規定品中ニ携具及外科具ノ内容品ノ如キモ含有ス

自明治三十八年五月
至同三十九年四月 獸醫材料受拂表

品目	稱數	入					拂				出計	殘	
		大連	遼陽	奉天	營口	返納	第一軍	第二軍	第三軍	第四軍			總督府
溶製石炭酸	1000	1000											
沃度加留	100	100											
沃度仿	100	100											
沃度丁	100	100											
華攝林	100	100											
胃酸古加乙	100	100											
鹽酸必魯加兒	100	100											

品目	稱數	入					拂				出計	殘	
		大連	遼陽	奉天	營口	返納	第一軍	第二軍	第三軍	第四軍			總督府
鹽酸莫兒比	100	100											
稀鹽	100	100											
偲里設	100	100											
醋酸鉛	100	100											
散布	100	100											
的列並底	100	100											
甘汞	100	100											
昇里知爾	100	100											
撒里知爾	100	100											
亞鉛華軟膏	100	100											
亞鉛華	100	100											
硫酸亞篤魯必	100	100											
硫酸比蘇斯知	100	100											
硫酸那篤留	100	100											
硫酸亞	100	100											
安知歌貌林	100	100											
格魯兒那篤留	100	100											

膿	膿	平打	平打	護打	鉛製	縫創	洞繩(三組製)	聽診器	打診器	帽針	最高最低寒暖計	皮下注射器	鯨製	S形	刺絡	套管	兩柳葉	銳
鹽	繩(大)	繩(小)	カテール	子	子	針	針	器	器	切	計	針	子	子	針	針	刀	匙
本	本	本	ル	子	子	針	個	個	個	個	具	本	個	個	個	個	個	個
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

雜用	提燈	藥匣	小藥匣	六個入	ラッシュ	黃銅	藥用石鹼	櫛齒	檢齶	有溝探	外科剪刀	外科刀	外科刀	外科刀	外科刀	退兒尼刀	護球狀
剪	(袋共)	大	中	小	ト	鐘	入	鉸	器	子	直	曲	(凸)	(直)	刀	刀	ト
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

砲兵第一旅團(蹄釘)	第十一師團(蹄釘)	第十師團(蹄釘)	第九師團(蹄釘)	第五師團(蹄釘)	第三師團(蹄釘)	第二師團(蹄釘)	滿洲總豫備軍		返納(各)			滿洲軍總豫備		
							蹄釘	轉螺器	水蹄鐵	尋常蹄鐵	水蹄鐵	尋常蹄鐵		
本	本	本	本	本	本	本	個	個	個	個	個	個	個	個
11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
...

砲兵第二旅團(蹄釘)	重砲兵旅團(蹄釘)	支那式蹄釘	支那式蹄釘	總計		
				螺式	鐵式	蹄釘
本	本	本	本	本	本	本
11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
...

- 一、各師團用蹄鐵ノ支給ハ當該師團ノミニ限ラズ他師團ニ流用ノ分モ含ム要スルニ實際補給シタル裝數ナリ
- 二、受入及拂出共朱書ノ裝數ハ整理上ノ都合ニヨリ各師團用ヲ總豫備用ニ編入シタルモノトス(※印朱書)
- 三、返送中ニハ大連ノ外奉天及遼陽支庫ヘ逆送ノ分ヲモ含ム
- 四、返納(各號)座ノ拂出ノ雜尋常六百六十裝水上九百十裝ハ検査ノ結果古蹄鐵ニ付野戰兵器本廠鐵嶺出張所ヘ納付ス

考

五、轉螺器ノ拂出雜二百八十個ハ返納蹄鐵整理ノ上補填トシテ費消シタルモノナリ

六、支那式蹄釘拂出雜ハ無釘蹄鐵二千二百裝ニ填補ス又支那式蹄釘五萬本受入ノ内三萬本ハ氷上用ナリ

七、支那式蹄鐵及蹄釘ハ營口支庫ニテ購買セルモノニテ專ラ第四軍兵站醫部へ補充セルモノ内若干數ハ第十四師團獸醫部へモ補給セリ

八、總計中黑書ハ第二項ノ如ク單ニ整理ノ都合上師團用ヲ總豫備ニ換座セルニ過ギズ故ニ總計ニハ算セズ

(本項ノ殘高ハ關東陸軍倉庫引繼ノ數量ナリ)

九、返納蹄鐵中ノ初期内容不明ノモノハ受入直ニ返納座ニ記帳整理上總豫備若クハ各師團座ニ繰入レタルモノノ記明願ル煩雜ナルヲ以テ更ニ方法ヲ改メ毎旬整理高ヲ檢査シ一括シテ常該師團座ニ記帳セリ

十、雜拂出ノ内尋常蹄鐵七千三百五十裝蹄釘三十萬本支那蹄鐵五千三百四十裝ハ關東陸軍倉庫へ引繼ギタルモノナリ

自明治三十八年五月
至同三十九年三月

各軍返納獸醫材料受拂一覽表

鐵嶺支庫

品目	入				出				殘
	稱	數	計	補給品破損返送雜計	稱	數	計		
溶製石炭酸	磅	1481	108	1589	1481	108	1589	1481	
沃度加留	ク	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	
沃度仿	ク	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	

沃度丁幾	磅	118	110	118	118	110	118	118
華攝林	ク	18	112	130	130	112	130	130
胃散	ク	18	112	130	130	112	130	130
鹽酸古加乙	瓦	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
鹽酸必魯加兒	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
鹽酸莫兒比	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
稀鹽	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
偏里設	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
醋酸鉛末	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
散布劑	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
的列並底	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
甘汞	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
昇汞	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
撒里知爾	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
撒里知爾	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
撒里知爾	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
亞鉛	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
亞鉛	ワ	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401
硫酸亞篤魯	瓦	1401	1122	1401	1401	1122	1401	1401

獸醫外科器具	瓦蘭謨秤(二十瓦)	瓦蘭謨秤(二瓦)	倒馬器	去勢術用捻子	手術衣 <small>前垂共</small>	溫保毛巾(腹帶共)	米澤式消毒噴霧器	田原氏消毒燈(屬品共)	顯微鏡	吸入器	皮下注射器	偲里設林灌腸器 <small>代共</small>	灌腸器(イリカトル)	乳鉢(棒共)	膏藥	毛刈	烙鐵
個	個	個	具	枚	枚	具	具	具	個	個	個	個	個	個	個	個	個
二五八	二五九	二六〇	二六一	二六二	二六三	二六四	二六五	二六六	二六七	二六八	二六九	二七〇	二七一	二七二	二七三	二七四	二七五
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

寒暖計	革砥	磨草	拔子	黃銅	水牛	鐵匙	鼻捻兼送藥器	創子 <small>桶</small>	硝子液量器(100瓦)	硝子液量器(十瓦)	硝子二重蓋瓶	檢溫器	雜用剪	提燈(袋共)	藥匣 <small>小中</small>
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五	一六六	一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二	一七三	一七四
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

備	濾過紙				點眼子				硝子瓶				曲物				皮下注射器用ゴム口			
	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝	個	枝		
一 關東總督府補受ノ主ナル部隊ハ第十四師團及戰地馬匹購買委員トス	二五〇		二		二		五		五		五		五		五		五			
二 藥品受入中ニハ使用殘即チ一磅ニ充タザル者不少之等ハ目算二百瓦乃至二百五十瓦ノモノハ半磅トシテ加算シ百瓦以下ノモノハ往々切捨テタルヲ以テ返納數量ニ對シ整理數量ノ不足セルモノアルハ免レザルトコロナリ																				
三 藥品ノ破損ハ開函検査ノ際既ニ梱包不備ノタメ輸送途中破損セルモノニシテ其都度欠品トシテ處分セ																				
四 溫保毛布選送中ニ洗濯再用ノ爲メ遼陽支庫へ逆送ノ分ヲモ含ム又全體ニ於テ腹帶二百五十本不足セリ																				
五 返納品中藥品及消耗品ハ比較的新品多カリシモ器械類ハ約三分ノ二以上古品ナリ又器械類ハ全數ノ約半分ハ破損品ニシテ修理ノ見込ナキモノ少ナカラザルモ將來製作上ノ參考ニ資セントタメ悉ク大連へ還送ス																				
六 返納品中新品ニシテ在庫品不足ノモノハ補給準備品トシテ受入他ハ直ニ還送セルヲ以テ物品出納簿ニ登錄セズ																				
七 器械中最モ破損ノ多カリシハ備里設林瀋腸器毛刈剪雜用剪檢溫器齒缺外科剪外科刀並ニ藥匣等トス																				
八 器械ノ欠品ハ僅カニ原形ノ一部ヲ存スルニ過ギズ到底修理ノ見込ナキモノニシテ適宜處分セリ又消耗品ノ汚損ノ梱包不備ノタメ使用ニ堪ザル見込ノモノハ當支庫ノ梱包材料ニ利用セリ																				

考

- 九 本表ノ外開函検査ノ暇ナクシテ受入梱包ノ儘直ニ還送セルモノ六十梱アリ(六十梱中第四軍五十梱第三軍十梱トス)
- 十 本表ノ梱數ハ約二千梱ナリ

滿洲軍倉庫殘務整理所藏版

印刷者

東京麴町區麴町隼町四番地

小林 又 七

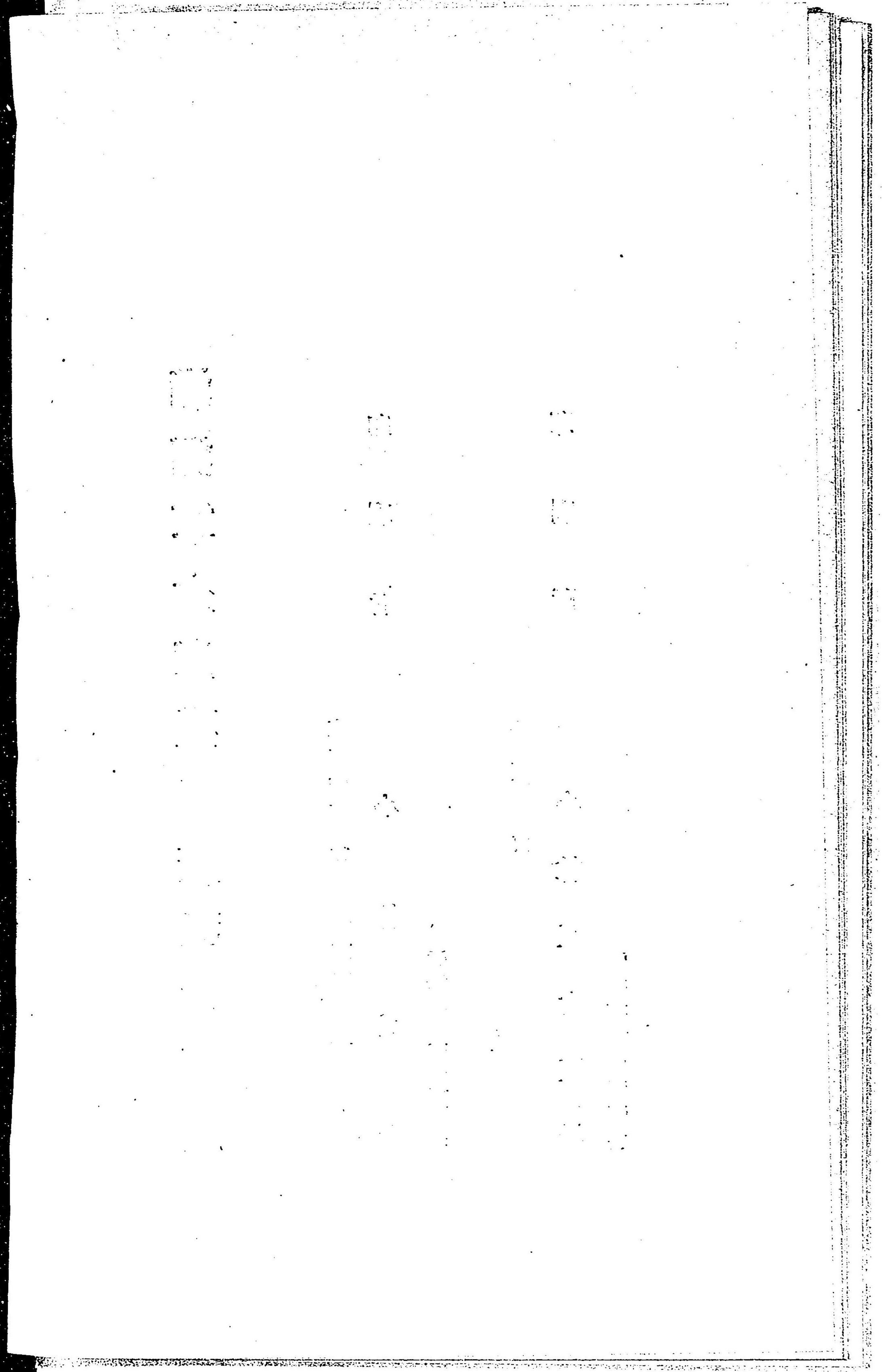
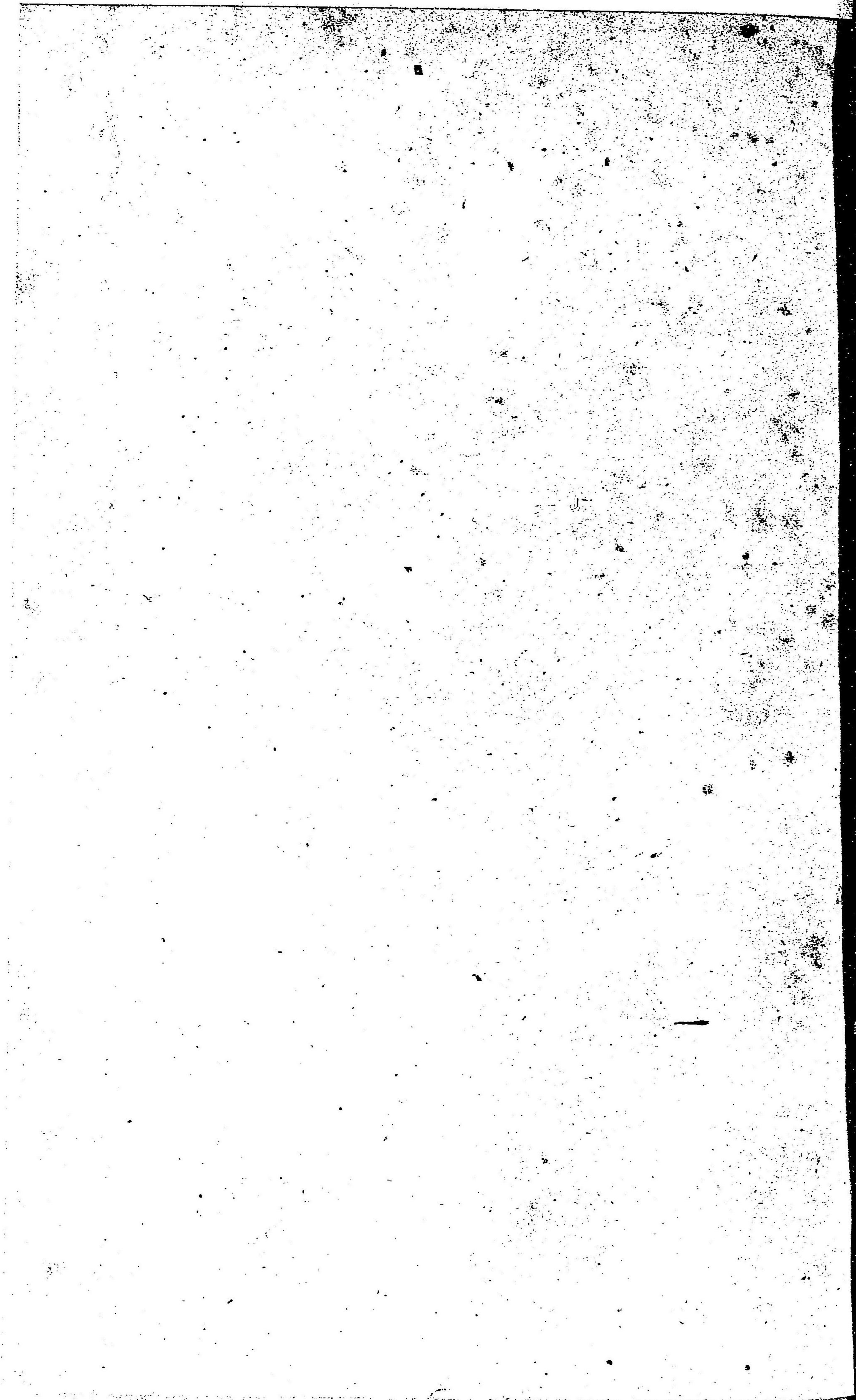
電話番町賣六貳九番

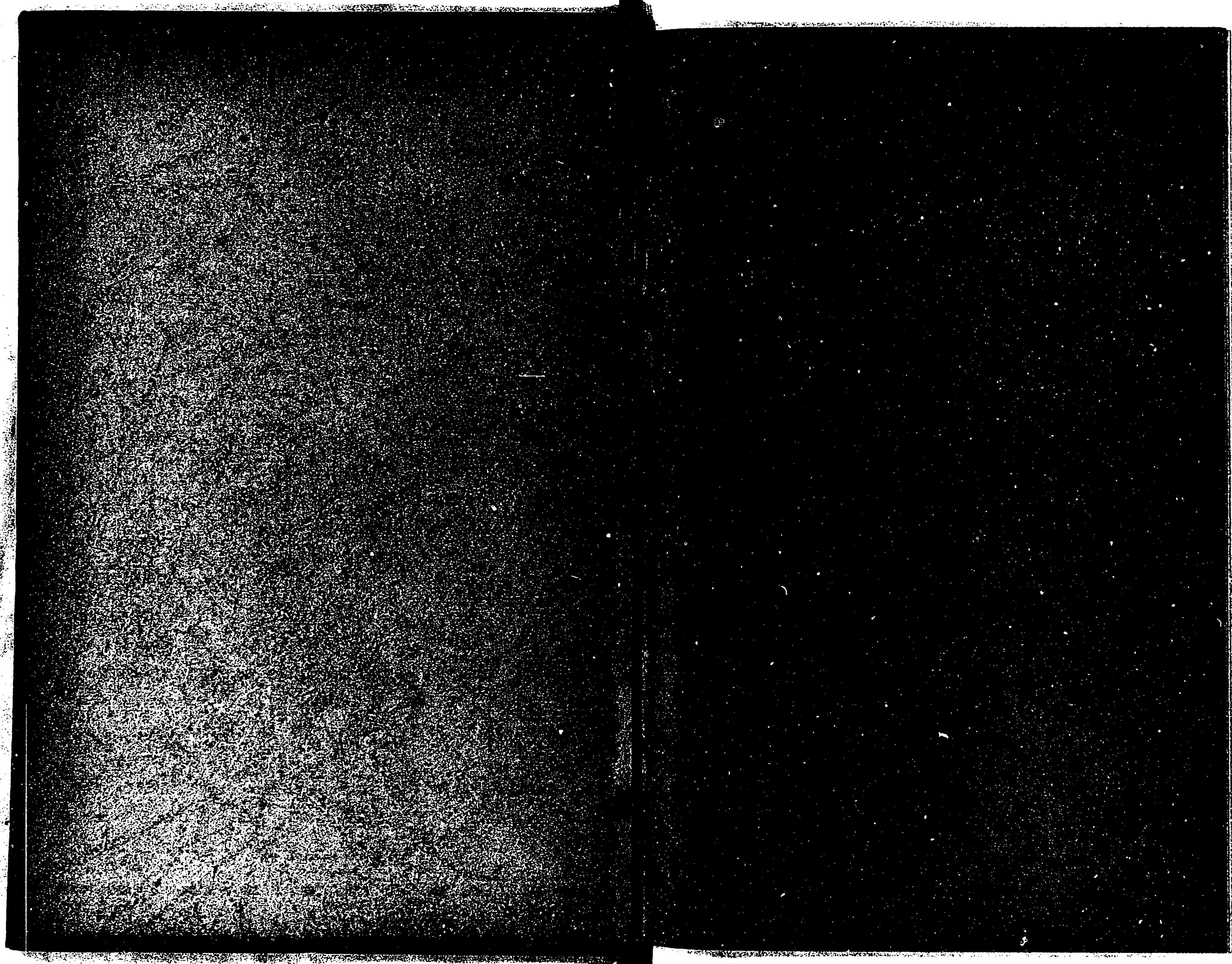
印刷所

陸軍省構内

小林 又 七 工場

電話新橋九四壹番





7

